

シラバス

(講義計画)

2023 年度 (令和 5 年度)

- 1 年次 (22 期生)
- 2 年次 (21 期生)
- 3 年次 (20 期生)



桔梗
(花言葉 気品・誠実)

長崎市医師会看護専門学校 第1看護学科

学籍番号 _____

学生氏名 _____

教育理念

看護専門職としての志を高く持ち、

自ら学び、考え、行動する

看護実践者の育成

看護職は、憲法 25 条に規定する国の責務である社会福祉を実現するための、専門的な職種として存在する。

本校は、看護の専門的能力と自律性を持つ職業人を育成するための基礎教育機関である。

本校に学ぶ者は、生命の尊厳を基盤とし、人間が人間に直接的に関わる実践的な職業である看護の知識・技術を、専門的に体系化された教育課程に基づいて習得する。同時に対象の多様なニーズに応えるための、コミュニケーション能力、共感し洞察する能力、問題解決力、意思決定・判断力、調整力、多職種と協働する能力等を総合的に学び取っていかなければならない。さらに、看護に求められるものは時代の要請により、高度化、複雑化することを前提に、卒業した後もたゆまぬ努力によって自己研鑽する責務があり、そのための主体的な自己学習の姿勢を養う必要がある。

本校は、前述した高い志を持って学ぶ者が、その生涯を通して、看護という手段を用いて具体的に地域社会の医療及び公衆衛生に貢献できるよう、誠実に教育を行うものである。

主要概念の定義

人間とは

人間は、変化する環境の中で、身体的・精神的、さらに社会的に統合されている存在である。

人間は、個としての存在であり、他者との関係の中で影響しあいながら、生活者としてよりよく生きていく存在である。

人間は、胎生期から老年期までのいずれかの発達段階にあり、可能性をもち成長・発達する存在である。

環境とは

環境は、内部環境と外部環境があり、人間とその生活を取り巻くすべてである。人間は環境との相互作用の中でホメオスタシスを保つことで生命を維持している。人間の健康は環境に影響を受けるとともに、人間も環境を変化させる存在である。

健康とは

身体的・心理的・社会的に調和のとれた状態である。個々の人間がおかれている環境の中で、それぞれの価値観をもち自己の可能性を最大限に発揮して生活している状態である。

健康は生きていく上での権利として、誰にでも平等に保障され社会生活の基盤となっている。

看護とは

看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象として、健康の保持増進、疾病予防・疾病のコントロール、健康回復、苦痛の緩和を行い、さらに生涯を通してその人らしく最期まで生を全うできるようにすることである。

看護活動は、その人の生命力を高め、身体的・精神的・社会的に支援することである。

教育とは

学習者が自己実現に向かって主体的に取り組むことができるよう働きかけることである。そして、学習者と教育者は相互関係の中で成長しあうものである。

看護実践とは

看護実践は、看護職が対象に働きかける行為であり、看護実践の知識基盤は、ケアに不可欠な創造性、支援者としての自己認識、対象者にとって善悪を判断する倫理が含まれ、実践にはこれらが組み合わされて用いられる。

臨床判断とは

臨床判断は、患者情報、臨床的な知識、状況に関する情報を考慮し認知的な熟考と直感的な過程によって、観察事項、観察された情報の推論、援助活動の決定を下すこと。

地域で生活する人とは

すべての発達段階や様々な心身の健康状態にある人たちが、多種多様な場面でその人らしさを模索、構築、遂行しながら、おかれた場所で生活を営む人

暮らしとは

その人のライフスタイルをもって、一日一日を過ごしていくこと

*ライフスタイル

生活の様式・営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方。

目 次

シラバスの活用について	1
分野の考え方 (22・21 期生)	2
分野の考え方 (20 期生)	3
1 年次履修科目	
教育課程 履修科目一覧	4
授業進度表	5
基礎分野	
科学的思考の基盤	
論理学	6
情報科学 I (情報通信技術活用の基礎)	7
人間と生活・社会の理解	
心理学	8
人間関係論 (A組)	9
人間関係論 (B組)	10
社会学	11
英語 I	12
健康とレクリエーション体育	14
看護コミュニケーション論	15
専門基礎分野	
人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	
人体の構造としくみ	16
人体の生理機能	17
代謝栄養学 (生化学/栄養学)	18
疾病論 I (呼吸/循環)	19
疾病論 II (消化器/内分泌・代謝)	20
疾病論 III (血液造血/免疫/腎)	21
疾病論 IV (脳神経/運動器)	22
疾病論 V (手術療法/泌尿器/女性生殖器)	23
疾病論 VII (微生物学・感染症)	24
治療総論 (薬理学)	25
専門分野	
基礎看護学 看護学概論	26
基礎看護学 フィジカルアセスメント	27
基礎看護学 日常生活援助技術 I (生活環境/活動と休息)	28
基礎看護学 日常生活援助技術 II (栄養と食生活/排泄)	29
基礎看護学 日常生活援助技術 III (清潔と衣生活)	30
基礎看護学 診療に関する援助技術 I (感染予防/周手術期看護/呼吸ケア)	31
基礎看護学 看護過程と看護記録	32
地域・在宅看護論 地域・在宅看護論概論	33
地域・在宅看護論 地域における暮らしの理解	34
成人看護学 成人看護学概論	35
老年看護学 老年看護学概論	36

小児看護学	小児看護学概論	-----	37
母性看護学	母性看護学概論	-----	38
精神看護学	精神看護学概論	-----	39

2年次履修科目

教育課程	履修科目一覧	-----	40
授業進度表		-----	41

基礎分野

科学的思考の基盤

情報科学Ⅱ	(情報通信技術活用法)	-----	42
教育学		-----	43

人間と生活・社会の理解

文学		-----	44
英語Ⅱ	(日常会話)	-----	45

専門基礎分野

人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進

疾病の成り立ち	(病理学)	-----	46
疾病論Ⅵ	(眼／耳鼻咽喉／皮膚／口腔)	-----	47
看護の臨床判断		-----	48

健康支援と社会保障制度

医療倫理		-----	49
社会福祉		-----	50

専門分野

基礎看護学	診療に関する援助技術Ⅱ (薬物療法と看護)	-----	51
基礎看護学	診療に関する援助技術Ⅲ (検査と看護／放射線療法と看護/食事療法)	-----	52
基礎看護学	臨床判断と看護実践	-----	53
地域・在宅看護論	在宅看護における基本援助論	-----	55
地域・在宅看護論	家族看護論	-----	57
地域・在宅看護論	在宅看護における医療処置	-----	58
成人看護学	救急医療と看護	-----	59
成人看護学	手術療法と看護	-----	60
成人看護学	セルフマネジメントの支援	-----	61
成人看護学	緩和ケア	-----	62
成人看護学	生活行動障害と看護 (呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)	---	63
老年看護学	老年看護学援助技術	-----	64
老年看護学	老年期に特有な障害と看護	-----	65
小児看護学	小児看護学援助技術	-----	66
小児看護学	小児期における健康障害	-----	67
小児看護学	小児期における看護	-----	68
母性看護学	周産期の経過／新生児の看護	-----	69
母性看護学	妊婦・産婦・褥婦の看護	-----	70
母性看護学	リプロダクティブヘルス	-----	71
精神看護学	精神障害と治療法	-----	72
精神看護学	精神障害の看護援助	-----	73
看護の統合と実践	災害看護	-----	75

3年次履修科目

教育課程 履修科目一覧	76
授業進度表	77

専門基礎分野

健康支援と社会保障制度

地域保健論	78
関係法規	79

統合分野

看護の統合と実践 看護マネジメントと国際看護	80
看護の統合と実践 医療安全（演習）	81
看護の統合と実践 看護研究（演習）	82

講師一覧表

22期生	83
21期生	84
20期生	85

シラバスの活用について

新年度開始の時期に全履修科目（臨地実習科目を除く）をまとめたシラバスを学生の皆さんに配布します。シラバスというのは、授業のねらいや内容、使用テキスト、評価方法などを明示し、授業の計画を示す文書のことをいいます。

これを冊子にして学生に事前に配布する目的は、主に以下の三点にあります。

まず一つ目の目的は、学生の皆さんにカリキュラムの全体像をつかんでいただくことにあります。新しい年次のスタートにあたって、これからの1年間あるいは3年間にどのような科目がどのような進度で計画され、どのような授業が行われようとしているのか、その全体的な流れや内容を見ていただきたいと思います。それにより、看護の専門職を目指す学生として長期的な学習目標・学習計画を立て、自律した学習行動を確立していって下さい。

二つ目の目的は、それぞれの科目の授業開始にあたっては、授業のねらい、進め方、使用テキストなどを事前に把握し、授業への興味・関心を高め、授業の準備、予習に十分に活用していただくことです。シラバス配布の最も重要なねらいは、学生が主体的に授業に参加することにあります。事前にテキストを読み自ら考えていく姿勢や、授業内容に集中し講師にも多くの質問をぶつけていく学習態度があるとすれば、同じ時間の学習を何倍もの成果に変えていくことができるでしょう。そのような学習にこのシラバスが活用されることを期待しています。

三つ目の目的は、シラバスは、皆さんが本校を卒業後にも必要になることがあるということです。皆さんの中には、本校卒業後、大学等へ編入・進学しようと考えている人がおられると思います。大学等に編入・進学した際には、既習単位認定の申請という手続きがあり、シラバスの提出を求められる場合があります。卒業後も必要な場合があることを認識し保管しておいて下さい。

本冊子は、年度が替わっても科目の設定意義、範囲、主要内容等について変わることはありませんが、担当講師の変更や使用テキストの変更、あるいは担当講師の授業準備の過程において授業の進め方や内容等が変更される場合があります。変更がある場合は、各講義の開始時に担当講師より資料等にて修正、説明がありますので、その内容に差し替えて保管・活用して下さい。また科目によっては、実際の授業内容に合わせてより詳細なシラバスが配布される場合もありますので、最大限に活用して下さい。

このシラバスが学生の皆さんの積極的な授業参加に役立つことを期待します。

2023年4月

分野の考え方 (22・21 期生)

基礎分野

看護は人間を対象としていることから、自己を含めて人間の心理や行動を理解し、人間が生活している社会について理解できる内容とする。そして看護の対象である人間について深く考えるとともに、国際化、情報化社会に対応する基礎的知識、さらには情報通信技術 (ICT) を活用するための基礎的能力を養う内容とする。また専門職業人に必要な論理的思考と科学的思考や人間関係を築くためのコミュニケーション能力を高める学習を強化し、感性を磨き、主体的な判断と行動を促す内容とする。したがって基礎分野は教育課程全体の土台であり、看護専門職に必要な人間性を養う基盤であると考えられる。

専門基礎分野

看護学の観点から人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する洞察力、判断力を強化するため、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学、微生物学、疾病論等を看護実践の基礎として学ぶ内容とする。そして看護師に必要な臨床判断能力の基盤となる力を養う内容を強化する。また人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように、保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割を学ぶ内容とする。さらに医療従事者にとって不可欠な医療倫理観を養う内容とする。したがって専門基礎分野は、看護実践を学ぶ専門分野全体の基盤であると考えられる。

専門分野

看護における重要な概念、基本看護技術、各看護学に共通する看護の考え方や方法を学ぶ内容とする。基礎看護学では、看護の基礎となる理論や技術、看護の展開方法の基礎を学び、看護師としての臨床判断能力を養う内容を強化する。地域・在宅看護論では、地域で生活する人々の暮らしの理解と地域で生活する人々の家族を理解する内容を強化する。また多職種と協働する中での看護の役割を理解する。成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の各看護学では、成長発達段階を深く理解し、様々な健康状態にある人々、及び多様な場で看護を必要とする人々に対する看護の方法を学ぶ。看護の統合と実践では、チーム医療における多職種との連携・協働を理解する内容を強化する。さらに臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、専門基礎分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶ。

臨地実習では、知識・技術を看護実践の場面に適応し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を養う。さらに対象者及び家族の意思決定を支援することの重要性を学ぶことができるように強化する。また病院だけでなく、多様な場で実習を行うことで保健・医療・福祉との連携・協働を通して看護を学ぶ実習とする。

分野の考え方 (20 期生)

基礎分野

基礎分野では、看護は人間を対象としていることから、自己を含めて人間の心理や行動を理解し人間が生活している社会について理解できるような内容とする。看護するうえで事実を正しく解釈し表現できる能力が必要となるため論理的思考、判断力や問題解決力を養う基礎を学習する。対象者との相互関係を築くためにはコミュニケーション能力を強化する必要がある。さらに国際化・情報化という社会の中で対応できる能力を身につける内容とする。

専門基礎分野

人間の健康や疾病の成り立ち、回復の促進について理解し、健康、疾患・障害に関する観察力・判断力を養う視点を学び、看護を科学的にとらえることのできる基礎とする。

人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じた生活をおくれるよう保健、医療、福祉についての基本概念、関係制度、さらに地域での保健活動についての基礎を学ぶ。さらに医療従事者にとって不可欠な医療倫理観と生命の尊厳について理解し、看護ケアに関連する倫理規定や看護の過程で考慮しなければならない倫理的問題につながるように学ぶ必要がある。

専門分野 I

看護における重要な概念をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性を認識できる内容を学習する。また、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を修得する内容とする。特に対象の理解として、コミュニケーション技術、フィジカルアセスメント技術は看護師には欠かせない能力として身につける必要がある。さらに、健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護について考えられるよう、演習を通して看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ。

臨地実習で、対象者に応じた看護を実践するために専門基礎分野で学んだ内容と連動させ、看護のアセスメント能力が身につくようにする。

専門分野 II

専門分野 I の基礎看護学を基盤とし、臨床実践能力の向上を図るために各看護学において、演習を強化し、看護の対象及び目的の理解、予防、健康の回復、保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ。臨地実習では、学内での学習内容と連動させ、知識・技術を看護実践の場面に活用させることで看護の理論と実践を結びつけ、臨床実践能力の向上を図ることが重要である。また、看護師は保健・医療・福祉でも役割を担うことが求められている観点から、保健医療福祉との連携・協働を通して看護を実践できる基礎的能力を養う。

統合分野

「在宅看護論」は、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護実践の基礎を学ぶ内容とする。また、在宅での基礎的な看護技術を身につけ、他職種と協働する中での看護の役割を理解する。

「看護の統合と実践」は、臨床実践に近い形で学習し、学生が臨床実践能力を修得できるよう、より臨床実践に近い状況を想定した学習をし、知識・技術を統合できるよう演習を強化する。さらに、臨地実習においては、知識と技術を活用し実務に即した実習ができるように学習する。

1 年次履修科目

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

教 育 課 程

(第1看護学科)

区分・内容		授 業 科 目		単位 (時間数)	区分・内容	授 業 科 目		単位 (時間数)	
基礎分野	基 盤 的 思 考 の	論理学		1 (30)	専 門 基 礎 分 野	成人看護学概論		1 (30)	
		情報科学Ⅰ (情報通信技術活用の基礎)		1 (30)		成人看護学	救急医療と看護		1 (15)
		情報科学Ⅱ (情報通信技術活用法)		1 (15)		手術療法と看護		1 (30)	
		教育学		1 (30)		セルフマネジメントの支援		1 (30)	
	人 間 と 生 活 ・ 社 会 の 理 解	文学		1 (15)		緩和ケア		1 (30)	
		心理学		1 (30)		生活行動障害と看護 (呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)		1 (15)	
		人間関係論		1 (30)		小計		6 (150)	
		社会学		1 (15)		老年看護学概論		1 (30)	
		英語Ⅰ		2 (45)		老年看護援助技術		1 (30)	
		英語Ⅱ (日常会話)		1 (15)		老年期に特有な障害と看護		2 (45)	
		健康とレクリエーション体育		2 (45)		小計		4 (105)	
	看護コミュニケーション論		1 (15)	小児看護学概論			1 (30)		
	合 計		14 (315)	小児看護援助技術			1 (15)		
	専 門 基 礎 分 野	疾 人 体 の 成 り 立 ち と 機 能 回 復 の 促 進	人体の構造としくみ			2 (45)	小 児 看 護 学	小児期における健康障害	
人体の生理機能				2 (45)	小児期における看護			1 (30)	
代謝栄養学 (生化学/栄養学)				2 (45)	小計			4 (105)	
疾病の成り立ち (病理学)				1 (30)	母性看護学概論			1 (30)	
疾病論Ⅰ (呼吸/循環)				1 (30)	周産期の経過/新生児の看護			1 (30)	
疾病論Ⅱ (消化器/内分泌・代謝)				1 (30)	妊婦・産婦・褥婦の看護			1 (30)	
疾病論Ⅲ (血液造血/免疫/腎)				1 (30)	リプロダクティブヘルス			1 (15)	
疾病論Ⅳ (脳神経/運動器)				1 (30)	小計			4 (105)	
疾病論Ⅴ (手術療法/泌尿器/女性生殖器)				1 (30)	精神看護学概論			1 (30)	
疾病論Ⅵ (眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔)				1 (30)	精神障害と治療法			1 (30)	
疾病論Ⅶ (微生物学・感染症)				1 (30)	精神障害の看護援助			2 (45)	
治療総論 (薬理学)				1 (30)	小計			4 (105)	
看護の臨床判断				1 (15)	精神看護学			1 (30)	
健 康 支 援 と 社 会 福 祉		医療倫理		1 (30)	精神障害と治療法		1 (30)		
		社会福祉		2 (30)	精神障害の看護援助		2 (45)		
		地域保健論		1 (15)	小計		4 (105)		
		関係法規		2 (30)	災害看護		1 (15)		
合 計			22 (525)	看護マナジメントと国際看護		1 (15)			
専 門 分 野		基 礎 看 護 学	看護学概論		1 (30)	看 護 の 統 合 と 実 践	医療安全		1 (30)
	フィジカルアセスメント			1 (30)	多職種連携・協働			1 (15)	
	日常生活援助技術Ⅰ (生活環境/活動と休息)			1 (30)	看護研究			1 (15)	
	日常生活援助技術Ⅱ (栄養と食生活/排泄)			1 (30)	小計			5 (90)	
	日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)			1 (30)	基礎看護学実習Ⅰ (病院での生活を理解する実習)			2 (90)	
	診療に関する援助技術Ⅰ (感染予防/周手術期看護/呼吸ケア)			1 (30)	基礎看護学実習Ⅱ (日常生活援助の実習)			1 (45)	
	診療に関する援助技術Ⅱ (薬物療法と看護)			1 (30)	基礎看護学実習Ⅲ (看護過程を活用する実習)			2 (90)	
	診療に関する援助技術Ⅲ (検査と看護/放射線療法と看護/食事療法)			1 (30)	小計			5 (225)	
	看護過程と看護記録			1 (30)	地域・在宅看護論実習Ⅰ (施設での生活を理解する実習)			2 (90)	
	臨床判断と看護実践			2 (45)	地域・在宅看護論実習Ⅱ (在宅での療養生活を理解する実習)			2 (90)	
	小計			11 (315)	成人・老年看護学実習Ⅰ (あらゆる健康段階)			2 (90)	
	地 域 ・ 在 宅 看 護 論	地域・在宅看護論概論		1 (30)	成人・老年看護学実習Ⅱ (周手術期・急性期)		2 (90)		
		在宅看護における基本援助論		2 (45)	成人・老年看護学実習Ⅲ (退院支援)		2 (90)		
		家族看護論		1 (30)	小児看護学実習		2 (90)		
		地域における暮らしの理解		1 (30)	母性看護学実習		2 (90)		
		在宅看護における医療処置		1 (15)	精神看護学実習		2 (90)		
	小計		6 (150)	看護の統合実習		2 (90)			
					講義合計		80 (1,965)		
					実習合計		23 (1,035)		
				総 計		103 (3,000)			

教育課程一覽 (進度表)

22期生

教育内容	授業科目	単位	時間数	1年次		2年次		3年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	論理学	1	30							
	科学的思考の基盤	1	30							
	情報科学Ⅰ (情報通信技術活用の基礎)	1	30							
	情報科学Ⅱ (情報通信技術活用法)	1	15							
	教育学	1	30							
	文学	1	15							
	心理学	1	30							
	人間関係論	1	30							
	社会学	1	15							
	英語Ⅰ	2	45							
	英語Ⅱ (日常会話)	1	15							
	健康とレクリエーション体育	2	45							
看護コミュニケーション論	1	15								
合計	14	315			10 (240)		4 (75)			
専門基礎分野	人体の構造としくみ	2	45							
	人体の生理機能	2	45							
	代謝栄養学 (生化学/栄養学)	2	45							
	疾病の成り立ち (病理学)	1	30							
	疾病論Ⅰ (呼吸/循環)	1	30							
	疾病論Ⅱ (消化器/内分泌・代謝)	1	30							
	疾病論Ⅲ (血液造血/免疫/腎)	1	30							
	疾病論Ⅳ (脳神経/運動器)	1	30							
	疾病論Ⅴ (手術療法/泌尿器/女性生殖器)	1	30							
	疾病論Ⅵ (眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔)	1	30							
	疾病論Ⅶ (微生物学・感染症)	1	30							
	治療総論 (薬理学)	1	30							
	看護の臨床判断	1	15							
	医療倫理	1	30							
	健康支援と社会保障制度	2	30							
	社会福祉	2	30							
	地域保健論	1	15							
	関係法規	2	30							
	合計	22	525			13 (345)		6 (135)	3 (45)	
	専門分野	看護学概論	1	30						
		フィジカルアセスメント	1	30						
		日常生活援助技術Ⅰ (生活環境/活動と休息)	1	30						
日常生活援助技術Ⅱ (栄養と食生活/排泄)		1	30							
日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)		1	30							
診療に関する援助技術Ⅰ (感染予防/周手術期看護/呼吸ケア)		1	30							
診療に関する援助技術Ⅱ (薬物療法と看護)		1	30							
診療に関する援助技術Ⅲ (検査と看護/放射線療法と看護/食事療法)		1	30							
看護過程と看護記録		1	30							
臨床判断と看護実践		2	45							
小計		11	315			7 (210)		4 (105)		
地域・在宅看護論		1	30							
在宅看護における基本援助論		2	45							
家族看護論		1	30							
地域における暮らしの理解		1	30							
在宅看護における医療処置		1	15							
小計		6	150			2 (60)		4 (90)		
成人看護学		1	30							
救急医療と看護		1	15							
手術療法と看護		1	30							
セルフマネジメントの支援		1	30							
緩和ケア		1	30							
生活行動障害と看護 (呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)		1	15							
小計		6	150			1 (30)		5 (120)		
老年看護学		1	30							
老年看護学概論		1	30							
老年看護援助技術		1	30							
老年期に特有な障害と看護		2	45							
小計		4	105			1 (30)		3 (75)		
小児看護学		1	30							
小児看護学概論		1	30							
小児看護援助技術		1	15							
小児期における健康障害	1	30								
小児期における看護	1	30								
小計	4	105			1 (30)		3 (75)			
母性看護学	1	30								
母性看護学概論	1	30								
周産期の経過/新生児の看護	1	30								
妊婦・産婦・褥婦の看護	1	30								
リプロダクティブヘルス	1	15								
小計	4	105			1 (30)		3 (75)			
精神看護学	1	30								
精神看護学概論	1	30								
精神障害と治療法	1	30								
精神障害の看護援助	2	45								
小計	4	105			1 (30)		3 (75)			
看護の統合と実践	1	15								
災害看護	1	15								
看護マネジメントと国際看護	1	15								
医療安全	1	30								
多職種連携・協働	1	15								
看護研究	1	15								
小計	5	90					1 (15)	4 (75)		
基礎看護学実習Ⅰ (病院での生活を理解する実習)	2	90								
基礎看護学実習Ⅱ (日常生活援助の実習)	1	45								
基礎看護学実習Ⅲ (看護過程を活用する実習)	2	90								
小計	5	225			2 (90)		3 (135)			
地域・在宅看護論実習Ⅰ (施設での生活を理解する実習)	2	90								
地域・在宅看護論実習Ⅱ (在宅での療養生活を理解する実習)	2	90								
成人・老年看護学実習Ⅰ (あらゆる健康段階)	2	90								
成人・老年看護学実習Ⅱ (周手術期・急性期)	2	90								
成人・老年看護学実習Ⅲ (退院支援)	2	90								
小児看護学実習	2	90								
母性看護学実習	2	90								
精神看護学実習	2	90								
看護の統合実習	2	90								
小計	18	810					2 (90)	16 (720)		
合計	67	2160			16 (510)		31 (855)	20 (795)		
講義合計	80	1965			37 (1005)		36 (840)	7 (120)		
実習合計	23	1035			2 (90)		5 (225)	16 (720)		
総計	103	3000			39 (1095)		41 (1065)	23 (840)		

分野	基礎分野	授業科目名	論理学	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 なし	
担当講師名	篠原 駿一郎	実務経験	—	プリント配布	
学習目標				成績評価の方法	
<p>看護職においては、患者や医療スタッフとの高度なコミュニケーション能力が必要とされる。この講義では、医療に関する様々な資料に触れ、それを読み取り、論点を把握し、要約し、人に伝える能力を磨くと共に、そこで問題とされているテーマについてディベートする能力も養いたいと考えている。</p>				<p>授業への熱意</p> <p>最終テスト：100 点</p>	
回	授 業 計 画			備 考	
1	医療に関する新聞記事を読む。 新聞記事の構成と読み方を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
2	//				
3	医療に関する雑誌記事を読む。 雑誌記事の主張を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
4	//				
5	医療に関する評論文を読む。 評論文の主張を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
6	//				
7	医療に関する学術論文を読む。 学術論文を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
8	//				
9	//				
10	医療に関する法令文を読む。 法令文の主意を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
11	//				
12	//				
13	医療に関する宣言文を読む。 宣言文の理念を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
14	//				
15	テスト				

分野	基礎分野	授業科目名	情報科学 I (情報通信技術活用の基礎)	単位	1 単位 : 30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 ○実力養成改訂版 30 時間アカデミック情報リテラシー (実教出版) ○USB	
担当講師名	A組 日當 明男 B組 佐藤 雅紀	実務経験	— —		
学習目標				成績評価の方法	
1. 情報化社会の基本ツールの基本的操作方法を修得する。 2. 情報化社会の基本ツールの操作の学習方法を修得する。 3. ネット利用の利点と注意点を説明できる。				試験	
回	授 業 計 画			備 考	
1	ネットモラル。コンピューターとインターネットの基礎				
2	Word による文書作成の基礎・表の作成・図の作成①				
3	Word による文書作成の基礎・表の作成・図の作成②				
4	Word のまとめと課題				
5	Excel による文書作成の基礎				
6	数式と参照				
7	グラフの作成				
8	データベースの利用				
9	Excel のまとめと課題				
10	プレゼンテーションの目的とその構築方法				
11	PowerPoint による資料作成の基礎				
12	図やオブジェクトの利用				
13	プレゼンテーションの作成①				
14	プレゼンテーションの作成②				
15	PowerPoint のまとめと筆記試験				

分野	基礎分野	授業科目名	心理学	単位	1 単位 : 30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 プリント類	
担当講師名	朝長 昌三	実務経験	—		
学習目標 心理学は、行動の科学とされている。行動と適応、発達、パーソナリティ等の各分野から行動を理解することをねらいとする。				成績評価の方法 各分野の終了時にテストを行い、それらをもとに総合評価する。 筆記試験 : 100 点	
回	授 業 計 画			備 考	
1	心理学とは				
2	心理学とは				
3	行動の成立 要求の種類、フラストレーション				
4	要求水準 適応機制				
5	適応機制				
6	ビデオ 秘められた復元力				
7	発達の概念と主要理論				
8	条件付けにおける行動形成 発達の諸問題				
9	成熟と発達、発達段階 臨界期と発達課題				
10	知能とはなにか Spearman Thorndike Thurstone による分析 感情 (ビデオ)				
11	知能検査 (知能だけの検査) パーソナリティ				
12	パーソナリティ				
13	パーソナリティ				
14	パーソナリティの測り方				
15	試験				

分野	基礎分野	授業科目名	人間関係論	単位	1単位 30時間
対象学生	1年生(22期生)	開講時期	1年次 前期	テキスト：系統看護学講座 基礎分野 人間関係論第3版 医学書院 資料：必要時配布する。	
担当講師名	A組 上野 和美	実務経験	○		
学習目標 人は常に、人との関係の中で生き、成長する。人間理解と対人援助の基盤である「人間関係」について体験的に学び、人の心理や行動についての理解を深めるとともに、良好な人間関係を作るための力を身につけて欲しい。また、人間関係を学ぶことを通して、看護における援助的関わりの一助として欲しい。				成績評価の方法 ・筆記試験：試験結果の80% 筆記試験は100点満点を60点以上を合格とする。 ・事後学習課題評価：20% 2つの合計を最終評価とする。	
回	授 業 計 画			備 考	
1	オリエンテーション・アイスブレイク				
2	人間関係基礎論 人間関係の中の自己と他者			事前学習：テキスト pp. 4～22 を熟読してくる。	
3	人間関係基礎論 対人関係の役割			事前学習：テキスト pp. 24～40 を熟読してくる。	
4	人間関係基礎論 態度と対人行動			事前学習：テキスト pp. 42～58 を熟読してくる。	
5	人間関係基礎論 集団と個人			事前学習：テキスト pp. 60～77 を熟読してくる。	
6	人間関係を作る基礎と技法 コミュニケーション			事前学習：テキスト pp. 82～102 を熟読してくる。	
7	人間関係を作る基礎と技法 カウンセリングと心理療法			事前学習：テキスト pp. 104～124 を熟読してくる。	
8	人間関係を作る基礎と技法 コーチング			事前学習：テキスト pp. 126～139 を熟読してくる。	
9	人間関係を作る基礎と技法 アサーティブ-コミュニケーション			事前学習：テキスト pp. 142～157 を熟読してくる。	
10	保健医療における人間関係 保健医療チームの人間関係			事前学習：テキスト pp. 162～181 を熟読してくる。	
11	保健医療における人間関係 患者を支える人間関係			事前学習：テキスト pp. 184～222 を熟読してくる。	
12	保健医療における人間関係 家族を含めた人間関係			事前学習：テキスト pp. 224～250 を熟読してくる。	
13	保健医療における人間関係 地域を作る人間関係			事前学習：テキスト pp. 252～271 を熟読してくる。	
14	事例検討：グループディスカッション				
15	まとめ・テスト			終講テストを含みます	

分野	基礎分野	授業 科目名	人間関係論	単位	1 単位 30 時間
対象 学生	1 年生 (22 期生)	開講 時期	1 年次 前期	講義とワークで構成する。資料 配布の上、プロジェクターを使 用する。	
担当 講師名	B 組 長浦 由紀	実務 経験	○		
学習目標 (1) 自己・対人関係・集団の側面から人間関係について概論的に学ぶ。 (2) 学びを通して、自己及び他者理解を深め、コミュニケーションに 活かす。 (3) セルフもしくはグループワークによる体験的理解で医療現場に必 要と思われるコミュニケーションが意識できるようになる。				成績評価の方法 筆記試験：60 点 レポート：40 点	
回	授 業 計 画			備 考	
1	オリエンテーション 人間関係とは				
2	自己理解				
3	他者理解①				
4	他者理解②				
5	他者理解③				
6	患者と医療者①				
7	患者と医療者②				
8	コミュニケーション①				
9	コミュニケーション②				
10	個人と集団				
11	対人行動				
12	家族と医療者				
13	チーム医療				
14	人間関係を取り巻く社会				
15	まとめ/テスト			終講テストを含みます	

分野	基礎分野	授業科目名	社会学	単位	1 単位：15 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等特に指定なし。講義資料は適宜に配付予定。	
担当講師名	南 誠	実務経験	—		
<ul style="list-style-type: none"> 社会学の考え方と方法の習得をとおして、現代社会を理解・研究・観察するための力を身につける。 日々の生活に社会学的知見を活かせるようになることで、より能動的に「現代社会」を生きることができるようになる。 				成績評価の方法 筆記試験	
回	授 業 計 画			備 考	
1	イントロ-社会学的想像力				
2	社会を生きる-自己、家族、職業				
3	社会に組み込まれる-ジェンダー、国民とエスニック、文化				
4	社会と向き合う-グローバル社会、リスク社会				
5	社会にかかわることの意味			ゲスト講師を招へいする予定。 なお他の日に変更する可能性もある	
6	現代の日本社会を考える-移動から捉え直す				
7	社会を構想する				
8	試験 (45 分)				
9	/				
10					
11					
12					
13					
14					
15					

分野	基礎分野	授業科目名	英語 I	単位	2単位：45時間
対象学生	1年生（22期生）	開講時期	1年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 Check-Up! Basic English for Nursing (金星堂)	
担当講師名	大坪 有実	実務経験	—		
授業のねらい・学習目標 医療現場で繰り広げられる対話リスニングで聞く力と対応する力を、医療関連記事の読解を通して医療英語の表現・語彙力を身に着けることをねらいとする。				成績評価の方法 定期試験	
回	授業計画			備考	
1	Unit 1 May I Help You?			CDプレーヤー	
2	Unit 2 Where Do You Live?			CDプレーヤー	
3	Unit 3 Do You Have an Insurance Card?			CDプレーヤー	
4	Unit 4 What Department Do You Want to Visit?			CDプレーヤー	
5	Unit 5 What Are Your Symptoms?			CDプレーヤー	
6	Unit 6 Take One Tablet Three Times a Day			CDプレーヤー	
7	Unit 7 You're Suffering from Hay Fever			CDプレーヤー	
8	Unit 8 What Kind of Pain Is It?			CDプレーヤー	
9	Unit 9 Let's Check Your Daily Activities			CDプレーヤー	
10	Unit 10 Let's Check Your Pulse and Blood Pressure			CDプレーヤー	
11	総復習（45分）			CDプレーヤー	
12	定期試験（45分）			CDプレーヤー	

対象 学生	1年生（22期生）	開講 時期	1年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 Better Health for Every Day (金星堂)
担当 講師名	大坪 有実	実務 経験	—	
授業のねらい・学習目標 前期に続き、医療現場で求められる会話力、医療従事者として必要となる健康問題についての知識を、英文記事を通し身につけることをねらいとする。				成績評価の方法 定期試験
回	授 業 計 画			備考
13	Unit 1 Fuel Your Body and Mind			CDプレーヤー
14	Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away?			CDプレーヤー
15	Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy			CDプレーヤー
16	Unit 4 The French Paradox			CDプレーヤー
17	Unit 5 Americans' Interest in Sushi			CDプレーヤー
18	Unit 6 Don't Stay Away from <i>Natto</i>			CDプレーヤー
19	Unit 7 Acute Alcohol Intoxication Can Kill You			CDプレーヤー
20	Unit 8 Is Snoring a Bad Sign?			CDプレーヤー
21	Unit 9 Getting a Good Night's Sleep is a Challenge			CDプレーヤー
22	Unit 10 Chocolate and its Magical Power			CDプレーヤー
23	総復習（90分）			CDプレーヤー
24	定期試験（45分）			CDプレーヤー

分野	基礎分野	授業科目名	健康とレクリエーション体育	単位	2単位：45時間
対象学生	1年生（22期生）	開講時期	1年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材等	
担当講師名	飛奈 美耶子	実務経験	○	特になし 必要に応じて資料を配布	
授業のねらい・学習目標 運動やスポーツ、レクリエーションが健康づくりに及ぼす影響や、年齢に応じた体力の獲得方法などを講義・実技を交えて授業を行う。また、レクリエーション体育としてバドミントン・ソフトバレーといった生涯スポーツを中心とした種目を取り入れる。				成績評価の方法 出席状況、受講態度、レポート、定期試験（筆記・実技）	
回	授業計画			備考（利用施設）	
1	オリエンテーション			合同 PM	
2	レクリエーション①			学内体育館	
3	レクリエーション②			学内体育館	
4	レクリエーション③			学内体育館	
5	健康とは何かー現代の健康問題および政策ー			合同	
6	運動とエネルギー			合同	
7	有酸素性運動がもたらす効果			合同	
8	スポーツ障害及び救急処置法			合同	
9	身体組成			学内実習室	
10	体力測定①			学内体育館	
11	体力測定②			市民会館	
12	体力測定の結果解析			合同	
13	体力とトレーニング論			合同	
14	運動と栄養			合同	
15	筆記試験（45分）			合同	
16	ソフトバレー①			学内体育館	
17	ソフトバレー②			市民会館	
18	ソフトバレー③			市民会館	
19	実技試験（ソフトバレー）			市民会館	
20	バドミントン①			学内体育館	
21	バドミントン②			市民会館	
22	バドミントン③			市民会館	
23	実技試験（バドミントン）			市民会館	

分野	基礎分野	授業科目名	看護コミュニケーション論	単位	1単位：15時間
対象学生	1年生（22期生）	開講時期	1年次 後期	テキスト、参考書、使用教材 ○系看専門 基礎看護学[1] 看護学概論（医学書院） ○系看専門 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）	
担当講師名	吉本 直子	実務経験	○		
学習目標 1. 看護の関係構築に必要なコミュニケーション技術を理解する。 2. 看護の基礎的コミュニケーション技術を習得する。 3. コミュニケーション障害がある人への対応の基礎を理解する。				成績評価の方法 授業態度 グループワーク・演習貢献度 レポート 試験	
回	授 業 計 画				備 考
1	看護・医療におけるコミュニケーション				
2	関係構築のための接近的コミュニケーション				
3	看護における効果的なコミュニケーションの技術				
4	看護場面の基礎的コミュニケーション① シナリオ作成				演習
5	看護場面の基礎的コミュニケーション② ロールプレイ				演習、レポート
6	アサーティブ行動の実際				レポート
7	コミュニケーション障害がある人への対応				
8	単位認定試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

分野	専門基礎分野	授業科目名	人体の構造としくみ	単位	2単位：45時間
対象学生	1年生(22期生)	開講時期	1年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 解剖生理学：系統看護学講座、医学書院	
担当講師名	A組 戸田 一雄 B組 介田 圭	実務経験	○ ○	人体模型、模擬模型、DVD、スライドを併用する。 <u>構造はスケッチ学習を行うので色鉛筆を用意すること。</u>	
授業のねらい・学習目標 細胞から臓器に至る人体の構造を理解し、正常な機能を営むための生命現象を体系的に学習する。				成績評価の方法 試験 100%	
回	授業計画			備考	
1	解剖学と生理学 - 人体の構造としくみの学び方、解剖学用語の基礎知識			スライド学習併用	
2	人体の構成 - 階層性、細胞、組織、動物機能、植物機能			スライド学習併用	
3	消化器系 - 構造：口腔、咽頭、食道、胃			消化器模型を用いる	
4	消化器系 - 構造：小腸、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢			DVD学習併用	
5	消化器系 - 消化のしくみー咀嚼から排便まで			スライド学習併用	
6	呼吸器系 - 呼吸器の構造			DVD学習併用	
7	呼吸器系 - 呼吸のしくみ、呼吸運動			DVD、スライド学習併用、 模擬呼吸模型を用いる	
8	血液 - 組成、機能			DVD学習併用	
9	血液 - 凝固、線溶、血液型			DVD学習併用	
10	循環器系 - 心臓の構造、拍動のしくみ			心臓模型を用いる	
11	循環器系 - 心電図			DVD学習併用	
12	循環器系 - 動脈系、静脈系、門脈系			血管模型を用いる	
13	循環器系 - 毛細血管、微小循環			DVD、スライド学習併用	
14	循環器系 - 血圧調節のしくみ			DVD学習併用	
15	循環器系 - リンパ			スライド学習併用	
16	排泄器系 - 腎の構造			DVD、スライド学習併用	
17	排泄器系 - 排尿路の構造			腎模型を用いる	
18	排泄器系 - 尿生成のしくみ、体液の調節			DVD、スライド学習併用	
19	自律神経系 - 構成			DVD、スライド学習併用	
20	交感神経、副交感神経の機能			DVD、スライド学習併用	
21	内分泌系 - ホルモンの種類と分泌腺			DVD学習併用	
22.5	内分泌系 - ホルモンによる調節のしくみ			スライド学習併用	

分野	専門基礎分野	授業科目名	人体の生理機能		単位	2単位：45時間
対象学生	1年生(22期生)	開講時期	1年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 解剖生理学：系統看護学講座、医学書院、 人体模型、VTR、スライドを利用する。 <u>構造はスケッチ学習を行うので色鉛筆を用意すること。</u>	
担当講師名	A組 戸田 一雄 B組 介田 圭	実務経験	○ ○			
授業のねらい・学習目標 人体の構造を理解したうえで、各臓器の個々の機能および統合された機能を学習する。					成績評価の方法 試験 100%	
回	授業計画				備考	
1	骨格・筋系 - 人体の骨格、構造				骨格標本模型を用いる	
2	骨格・筋系 - 人体の骨格、体幹				骨格標本模型を用いる	
3	骨格・筋系 - 上肢、下肢				骨格標本模型を用いる	
4	骨格・筋系 - 全身の筋の構成				筋標本模型を用いる	
5	骨格・筋系 - 筋収縮のメカニズム				VTR, スライド学習併用	
6	神経系 - 興奮、伝導、伝達				VTR, スライド学習併用	
7	神経系 - 中枢神経、脳				脳標本模型を用いる。スライド、VTR, 学習併用	
8	神経系 - 統合機能				脳標本模型を用いる	
9	神経系 - 末梢神経、運動神経、感覚神経				VTR, スライド学習併用	
10	神経系 - 脳の高次機能				脳標本模型を用いる	
11	感覚系 - 視覚				眼模型を用いる	
12	感覚系 - 聴覚, 平衡覚				耳模型を用いる	
13	感覚系 - 味覚, 嗅覚				鼻模型を用いる	
14	感覚系 - 痛覚				VTR, スライド学習併用	
15	皮膚 - 皮膚の構造と機能				皮膚模型を用いる	
16	体温調節				VTR, スライド学習併用	
17	免疫系 - 非特異的防御機構				VTR, スライド学習併用	
18	免疫系 - 特異的防御機構				VTR, スライド学習併用	
19	生殖器系 - 男性生殖器の構造				生殖器模型を用いる、VTR学習併用	
20	生殖器系 - 女性生殖器の構造				生殖器模型を用いる、VTR学習併用	
21	受精と発生 - 胚葉の分化				VTR, スライド学習併用	
22.5	成長と老化				VTR, スライド学習併用	

分野	専門基礎分野	授業科目名	代謝栄養学 (生化学/栄養学)		単位	2単位：45時間
対象学生	1年生(22期生)	開講時期	1年次 前期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門基礎 生化学 人体の構造と機能2(医学書院) ○系看 専門基礎 栄養学 人体の構造と機能3(医学書院)	
担当講師名	生化学：宮西 隆幸(20時間) 栄養学：松永 知恵(25時間)	実務経験	○	—		
学習目標					成績評価の方法	
1. 人体を構成している物質の代謝や調節のしくみを理解する。 2. 健康と栄養・食生活についての基礎的知識を理解する。					筆記テスト 生化学：50点 栄養学：50点	
回	授 業 計 画					備 考
生化学						
1	生体分子と水分子のつながり、細胞の構造					
2	糖質の構造と分類、脂質の構造と分類					
3	アミノ酸の構造と分類、蛋白質の構造					
4	DNA・RNAの構造、遺伝情報の伝達と遺伝子発現					
5	酵素の機能と分類、ビタミンと補酵素					
6	代謝の概要					
7	糖質の代謝Ⅰ					
8	糖質の代謝Ⅱ、ATPの産生と利用					
9	脂質の代謝、アミノ酸の代謝					
10	ヘムの代謝、ヌクレオチド代謝					
栄養学						
11	栄養と健康について、栄養素の種類と機能(糖質)					
12	栄養素の種類と機能(脂質、アミノ酸)					
13	栄養素の種類と機能(ビタミン類)					
14	栄養素の種類と機能(ミネラル類、食物繊維)					
15	消化と吸収					
16	栄養素の体内変動と代謝、栄養ケア・マネジメント					
17	ライフステージと栄養(妊娠・授乳期、乳児期)					
18	ライフステージと栄養(成長期)					
19	ライフステージと栄養(成人・高齢期)					
20	臨床栄養(栄養補給法)					
21	臨床栄養(食事療法：内分泌疾患)					
22	臨床栄養(食事療法：循環器疾患)					
23	臨床栄養(食事療法：その他疾患)					

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病論 I (呼吸/循環)		単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 成人看護学(2) 呼吸器 (医学書院) ○系看 専門分野 成人看護学(3) 循環器 (医学書院)	
担当講師名	呼 吸： 中尾 匠 14 時間 循 環： 黒部 昌也 (8 時間) 渡邊 潤平 (8 時間)		実務経験	○ ○ ○		
学習目標 1. 呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得する。 2. 循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得する。					成績評価の方法 筆記試験 呼吸：50 点 循環：50 点	
回	授 業 計 画				備 考	
呼吸						
1	解剖、生理、症状、呼吸不全					
2	検査、治療、処置					
3	感染症					
4	間質性肺炎					
5	喘息、COPD					
6	肺塞栓、胸膜、過換気、SAS、縦隔					
7	癌、外傷、移植					
循環						
8	心臓の仕組みと身体所見のとり方；心臓病の臨床検査					
9	BLSとACLS					
10	高血圧；失神					
11	急性胸痛—急性冠症候群、大動脈解離、肺塞栓症—					
12	安定型冠動脈疾患および冠動脈インターベンション；冠動脈疾患の一次予防と二次予防					
13	その他の血管疾患、心臓弁膜症、心筋症					
14	重要な不整脈；不整脈の薬物およびデバイス治療					
15	心不全					

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病論Ⅱ (消化器/内分泌・代謝)		単位	1 単位 : 30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 消化器 成人看護学 5 (医学書院) ○系看 専門分野 内分泌・代謝 成人看護学 6 (医学書院)	
担当講師名	消化器 : 内分泌・代謝 :	(18 時間) (12 時間)	実務 経験			
学習目標 消化器疾患、内分泌・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得する。					成績評価の方法 筆記試験 消化器 : 60 点 内分泌 : 40 点	
回	授 業 計 画				備 考	
消化器						
1	第 1 章から医療の動向について 第 2 章 消化器の構造と機能					
2	第 3 章 症状とその病態生理					
3	第 4 章 検査と治療、処置とまとめ					
4	食道・胃疾患					
5	大腸疾患 (1)					
6	大腸疾患 (2)					
7	肝炎					
8	肝硬変、肝癌					
9	胆・膵疾患					
内分泌・代謝						
10	疾病総論、内分泌器官の構造と機能					
11	甲状腺、副甲状腺疾患、視床下部・下垂体疾患					
12	副腎疾患、性腺疾患、消化管ホルモン と腫瘍					
13	糖尿病、概念、分類、診断、治療					
14	糖尿病と慢性、急性合併症・糖尿病と妊娠					
15	高脂血症、肥満症、高尿酸血症					

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病論Ⅲ (血液造血/免疫/腎)		単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 学年 (22 期生)	開講時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 血液・造血器 成人看護学 4 (医学書院) ○系看 専門分野 アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学 11 (医学書院) ○系看 専門分野 腎・泌尿器 成人看護学 8 (医学書院)	
担当講師名	血液造血：(12 時間) 免疫：(10 時間) 腎臓：松下哲朗 (8 時間)	実務経験	○			
学習目標 血液・造血器・免疫、腎疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得することができる。					成績評価の方法 筆記試験 血液・造血：40 点 免疫：30 点 腎臓：30 点	
回	授 業 計 画					備 考
血液造血						
1	第 1 章 血液・造血器の医療の動向と患者の特徴 第 2 章 血液の生理と造血のしくみ					
2	第 3 章 検査・診断と症候・病態生理					
3	第 4 章 A. 赤血球の異常 B. 白血球の異常					
4	第 4 章 C. 造血器腫瘍 (その 1)					
5	第 4 章 C. 造血器腫瘍 (その 2)					
6	第 4 章 D. 出血性疾患					
免疫						
7	免疫のしくみとアレルギー、アレルギー疾患の検査と治療					
8	アレルギー疾患の症状と疾患の理解					
9	膠原病の医療の動向・概念、自己免疫疾患とその機序					
10	自己免疫疾患の検査と治療、自己免疫疾患の理解①					
11	自己免疫疾患の理解②					
腎臓						
12	腎疾患－症状とその病態生理－					
13	腎疾患－検査と治療－					
14	腎疾患－疾患の理解－					
15	腎疾患－疾患の理解－					

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病論IV (脳神経/運動器)		単位	1 単位 : 30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 運動器 成人看護学 10 (医学書院) ○系看 専門分野 脳・神経 成人看護学 7 (医学書院)	
担当講師名	脳神経 : 運動器 :	16 時間 14 時間	実務経験			
学習目標					成績評価の方法	
1. 運動器疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得する。 2. 脳神経疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得する。					筆記試験 運動器 : 50 点 脳神経 : 50 点	
回	授 業 計 画				備 考	
運動器						
1	運動器の構造と機能					
2	症状とその病態生理					
3	診断・検査と治療、処置					
4	疾患の理解 骨折、脱臼、捻挫及び打撲					
5	疾患の理解 神経の損傷、筋・腱・靭帯などの損傷					
6	疾患の理解 炎症性疾患 (骨髄炎、変形性関節症)					
7	疾患の理解 腰椎症 (腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア) 腫瘍 (骨肉腫)					
脳神経						
8	症状とその病態生理 (意識障害・頭蓋内圧亢進・高次脳機能障害・言語障害・運動麻痺・感覚障害・てんかん など) ①					
9	〃 ②					
10	疾患の理解 (脳梗塞) 診断と治療、検査法 (CT, DSA)					
11	疾患の理解 : 神経・筋疾患 (重症筋無力症・筋ジストロフィー・筋萎縮性側硬化症・パーキンソン病 など) ①					
12	〃 ②、感染症					
13	疾患の理解 (脳腫瘍) と治療・処置					
14	疾患の理解 (脳内出血・クモ膜下出血)					
15	脳梗塞の診断と外科的治療、頭部外傷、感染症 (脳膿瘍)					

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病論V (手術療法/泌尿器/女性生殖器)		単位	1 単位 : 30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 別巻 臨床外科看護総論 ○系看 別巻 臨床外科看護各論 ○系看 専門分野 腎・泌尿器 成人看護学 8 (医学書院) ○系看 専門分野 女性生殖器 成人看護学 9 (医学書院)	
担当講師名	手術療法:		12 時間	実務経験		
	泌尿器:		8 時間			
	女性生殖器:		10 時間			
学習目標 1. 手術療法の基礎的知識を習得する。 2. 泌尿器、生殖器疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し身体アセスメントの基礎的知識を習得する。					成績評価の方法 筆記試験 手術療法 : 40 点 泌尿器 : 30 点 女性生殖器 : 30 点	
回	授業計画				備考	
手術療法						
1	麻酔					
2	外科総論 術後合併症					
3	各論: 乳腺					
4	各論: 食道・胃					
5	各論: 大腸					
6	各論: 肝・胆・膵					
泌尿器						
7	解剖・症状とその病態生理					
8	検査・感染症					
9	尿路障害、尿路結石、尿失禁					
10	尿路性器腫瘍、奇形					
女性生殖器						
11	女性生殖器疾患患者の症状とその病態生理					
12	診察・検査・理学的検査～遺伝子検査					
13	治療・処置					
14	疾患の理解 (外陰、膣、子宮)					
15	疾患の理解 (卵管、卵巣、月経異常、不妊症、避妊)					

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病論Ⅶ (微生物学・感染症)	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 (4) 微生物学 (医学書院)	
担当講師名	有吉紅也 18 時間 12 時間	実務経験	○		
学習目標 医療の高度化により、感染に対してとくに抵抗力の低下している患者の割合が増加しています。また、交通手段の発達等により、新しい感染症が次々と出現しています。これから医療に従事する皆さんにも、院内感染（医療関連感染）を広げないための知識の習得と実践が求められています。しっかりとした知識を得ることは、感染症から自分の身を守ることにもつながります。				成績評価の方法 筆記試験	
回	授 業 計 画			備考	
1	総論 微生物とは				
2	防御免疫 私たちはどうやって守られている？ワクチンとは？				
3	ウイルス 1 と 2				
4	ウイルス 3 (HTLV-I など)				
5	細菌 1 と 2				
6	細菌 3 とその他の病原体 (梅毒、リケッチア、マイコなど)				
7	真菌・原虫・プリオンなど				
8	その他とこれまでの復習				
9	HIV、性病				
10	結核など				
11	手指衛生 (実習)				
12	手指衛生 (実習)				
13	感染予防・・・院内感染どうやって防ぐか (看護師に求められること)				
14	トラベルメディスンなど、なんでも自由に面白い話を				
15	まとめ講義 (試験の準備)				

分野	専門基礎分野	授業科目名	治療総論 (薬理学)	単位	1単位：30時間
対象学生	1年生(22期生)	開講時期	1年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門基礎 薬理学	
担当講師名	有賀 純 14時間 8時間 4時間 4時間	実務経験	○	疾病のなりたちと回復の促進(3) (医学書院)	
学習目標 薬の作用機序を理解し、薬の取り扱いに対する知識を得ること				成績評価の方法	
回	授 業 計 画			備考	
1	薬理学総論1 薬とは 薬力学				
2	薬理学総論2 薬力学 薬物動態学				
3	薬理学総論3 薬物動態学				
4	末梢での神経活動に作用する薬物				
5	中枢神経系に作用する薬物1				
6	中枢神経系に作用する薬物2				
7	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物				
8	物質代謝に作用する薬物				
9	抗感染症薬				
10	抗がん薬				
11	血液に作用する薬 漢方薬				
12	循環器系に作用する薬物1				
13	循環器系に作用する薬物2				
14	免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬				
15	皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、消毒薬				

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 看護学概論	単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生 (22 期生)	開講 時期	1 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護専門 看護学概論 (医学書院)	
担当 講師名	糟谷 操子	実務 経験	○	○系看護専門 基礎看護技術 I (医学書院) ○看護覚え書 (現代社) ○看護の基本となるもの 新装版 (日本看護協会出版会)	
学習目標				○看護職の基本的責務 (日本看護協会出版会) ○よくわかる看護職の倫理綱領 (照林社)	
1. 看護の対象である「人間とは」、「健康とは」、「家族とは」など、看護学を学ぶために必要な基本的な考え方 (概念) がわかる。				成績評価の方法	
2. 看護技術を学ぶにあたり、「技術とは何か」について考えることができる。				1) レポート (20 点)	
3. 看護の歴史や理論家の看護論を通して、看護について考えることができる。				2) 筆記試験 (70 点)	
4. 専門的職業としての看護の役割、機能、活動について理解できる。				3) 演習 (態度, 出席状況, 内容) (10 点)	
5. 看護実践における研究の概略がわかる。					
6. 看護に対する考え方の素地をつくることことができる。					
回	授 業 計 画			備 考	
1	看護の理念「看護師とは」・・・目指す看護師像				
2	「看護技術とは」				
3	看護の対象の理解「人間とは」「家族とは」－1			個人ワーク	
4	看護の対象の理解「人間とは」「家族とは」－2			発表	
5	健康のとらえ方「健康とは」－1			事前課題あり	
6	健康のとらえ方「健康とは」－2				
7	看護の歴史「看護とは」				
8	ナイチンゲール看護論・ヘンダーソン看護論・その他の看護論「看護とは」				
9	看護の役割と機能「看護とは」－1				
10	看護の役割と機能「看護とは」－2				
11	看護の提供のしくみ－1 看護と法制度				
12	看護の提供のしくみ－2 看護職者の教育と養成制度・キャリア開発, 看護サービス提供の場				
13	看護における倫理－1			事前課題あり	
14	看護における倫理－2				
15	看護研究の概要 まとめ				

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 フィジカルアセスメント	単位	1単位：30時間
対象学生	1年生（22期生）	開講時期	1年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材 ○系看 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術（医学書院） ○看護技術プラクティス第3版（学研） ○系看 専門基礎 解剖生理学（医学書院）	
担当講師名	渡辺 美樹子	実務経験	○	成績評価の方法 ・筆記試験 ・実技評価（バイタル） ・授業・校内演習への出席状況、参加態度 ・レポート提出状況、内容	
学習目標					
〈身体計測〉					
1. 身体各部の測定の意義が理解できる。					
2. 身体各部の測定方法が習得できる。					
〈フィジカルアセスメント〉					
1. バイタルについて観察の視点から理解できる。					
2. バイタルが正確かつ安全・安楽に測定できる。					
3. 測定結果を評価し、全身状態の観察・判断へつなげる意義が理解できる。					
4. 聴診・触診・視診・打診の基本的技法が理解できる。					
回	授業計画				備考
1	・身体各部の計測の意義 ・身長 体重 腹囲 握力 肺活量の測定方法				
2	・身体計測演習				校内演習・レポート
3	バイタルとは 体温の観察 ・体温の基礎知識（生理）				
4	・体温測定の基礎知識 体温測定 観察 記録 報告 ・体温異常時の看護：罨法他				
5	・罨法 他				
6	循環の観察（解剖生理） ・脈拍測定 観察 記録 報告				
7	・聴診器の取り扱い ・脈拍 心拍の測定 観察 報告				
8	・血圧測定の基礎知識 ・血圧計の仕組み 取り扱い				
9	・血圧測定（触診法 聴診法）観察 記録 報告				
10	呼吸の観察 ・呼吸の測定 観察 記録 報告				
11	・呼吸音の聴取 パルスオキシメーターでの測定 記録 報告				
12	聴診 触診 視診 打診などによる観察と情報収集 記録 腹部の観察 ・腸蠕動音の聴取 腹部膨満の観察 関節可動域（ROM）と徒手筋力測定（MMT）				
13	・バイタルサイン測定演習				校内演習・レポート
14					
15	・演習のふりかえり ・意識レベルの観察 記録 報告 ・フィジカルアセスメントまとめ				

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 日常生活援助技術 I (生活環境/活動と休息)			単位	1 単位 : 30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護学技術 II (医学書院) ○看護技術プラクティス (学研)	
担当講師名	生活環境： 野中 由香 活動と休息： 徳永 智子	14 時間 16 時間	実務 経験	○ ○			
学習目標						成績評価の方法	
<生活環境> 1. 健康生活における環境調整の必要性について説明できる。 2. 生活環境をととのえるためのアセスメントの視点が説明できる。 3. ベッドメイキング・臥床患者のシーツ交換を援助の根拠をふまえて実施できる。						・筆記試験 生活環境：50点 活動と休息：50点	
<活動と休息> 1. ボディメカニクスの原理・原則を理解し、基本的な援助技術を習得する。 2. 休息・睡眠の意義を理解し、睡眠・休息を促すための援助方法が理解できる。 3. 活動・休息が心身に与える影響を理解できる。						・実技試験 (臥床患者のリネン交換) ・校内演習 *出席状況、参加態度など ・課題・校内演習後レポート	
回	授 業 計 画					備 考	
生活環境							
1	・「環境」とは ・「療養の場として望ましい生活環境」とは						
2	・病室内環境のアセスメントと調整					校内演習	
3	・快適な病床環境の理解 1) 病室内環境の構成因子 2) 病床を整える条件 ・療養環境の整備 1) ベッド周囲の環境整備					グループワーク発表	
4	・療養環境の整備 1) ベッド周囲の環境整備のポイントと実施上の留意点 2) ベッド周囲の環境整備の実際					課題 校内演習	
5	・病床の環境調整技術 1) ベッドメイキングのポイントと実施上の留意点 2) ベッドメイキングの実際						
6	・療養環境の整備 1) 臥床患者のリネン交換のポイントと実施上の留意点					課題 校内演習	
7	2) 臥床患者のリネン交換の実際						
活動と休息							
1	・ボディメカニクス、よい姿勢、体位の特徴 (基本肢位、特殊肢位) ・人間の自然な立ち上がり動作の分析						
2	・ボディメカニクスの活用 ・人間の自然な動きと援助の活用 1) 坐位から立位 2) 仰臥位から側臥位 2) 起きあがり動作					校内演習	
3	・移動援助の基礎理論とその実際 1) 歩行介助 2) 車椅子移乗					校内演習	
4	・移動援助の基礎理論とその実際 1) 車椅子移動 2) ストレッチャー移動					課題	
5	・体位変換、移動と移送 1) 床上での水平移動 (上下・左右)、体位変換					校内演習	
6	2) 車椅子への移乗・移送 3) ストレッチャーへの移乗・移送						
7	・活動と休息とは ・不活動状態が身体に及ぼす影響を考える						
8	・休息・睡眠に関する基礎知識 ・休息・睡眠の意義と援助の実際						

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 日常生活援助技術Ⅱ (栄養と食生活/排泄)	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) ○看護技術プラクティス (学研)	
担当講師名	栄養と食生活：田原えりか 12 時間 排泄：平 よどみ 18 時間		実務経験	○ ○	
学習目標 1. 栄養と食生活の意義を理解し、基礎的知識・技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、基礎的知識・技術を習得する。				成績評価の方法 栄養と食生活：筆記試験 (40 点) 排泄：筆記試験 (60 点) 校内演習 *出席状況、参加態度、提出物など	
回	授 業 計 画			備 考	
栄養と食生活					
1	食事の意義、食欲と食行動、消化・吸収・排泄機構、わが国の食に関する対策				
2	栄養状態のアセスメント、食欲、摂取能力のアセスメント、食生活変更のアセスメント				
3	食事の介助				
4	非経口的栄養摂取 (経管栄養法 経静脈栄養法)				
5	食事介助の実際、経管栄養法 演習			校内演習 (食事介助・経管栄養法)・レポート ≪ 関連科目 ≫ 日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)：口腔ケアの実際	
6	医療施設における食事、摂食・嚥下訓練、食事に関する事故				
排泄					
7	・排泄の意義と機序、排尿・排便のアセスメント ・トイレにおける排泄介助、ポータブルトイレでの排泄介助				
8	・床上排泄援助の理解 (便・尿器の介助、おむつ交換の介助)				
9	・床上での排泄援助の検討 (演習) ～尿器を使用した排泄援助について考える～			校内演習	
10 11	・校内演習：床上排泄援助の実際 1) 排泄介助 (便器の介助、おむつ交換の介助) 2) 臥床患者の排泄援助 (陰部洗浄も含む)			校内演習 ≪ 関連科目 ≫ 日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)：陰部洗浄	
12	・排便障害時の看護 排便に関する排泄器官の機能とメカニズム、観察とアセスメント 排便を促す援助 (便秘改善の援助、浣腸、摘便)				
13	・排尿障害時の看護 排尿に関する排泄器官の機能とメカニズム、観察とアセスメント 導尿 (一時的導尿・持続的導尿)				
14 15	・校内演習：排泄を障害された人への援助の実際 1) グリセリン浣腸 2) 一時的導尿			校内演習 ≪ 関連科目 ≫ 診療に関する援助技術Ⅰ (感染予防)：無菌操作	

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護学技術Ⅱ (医学書院) ○医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス (学研)	
担当講師名	深松 亜紀子	実務経験	○		
学習目標				成績評価の方法	
1. 看護における身体の清潔・衣生活の意義と援助の必要性が理解できる。				筆記試験 (80 点) } 100 点	
2. 身体各部の清潔援助方法を理解し、基本的な援助技術を習得する。				レポート (20 点) } 実技試験 (全身清拭と寝衣交換) ・・・60 点以上	
				校内演習参加度 *出席状況、演習態度、提出物など	
回	授 業 計 画			備 考	
1	・清潔・衣生活の意義、皮膚・粘膜の構造と機能 ・健康および健康を障害された人の清潔			夏季休暇課題 全身清拭・寝衣交換の『行動と根拠』	
2	・全身清拭に必要な基礎知識 ・清拭のもたらす効果、全身清拭実施上の留意点				
3	・衣生活に必要な基礎知識 ・病衣の選択と条件に応じた衣類の交換 ・臥床患者の安全・安楽な寝衣交換を考える。			事前演習 (臥床患者の寝衣交換)	
4	・全身清拭・寝衣交換の援助			校内演習・レポート	
5	臥床安静患者、安全・安楽・自立に配慮した援助			実技試験 (3 月)	
6	・粘膜の清潔に必要な基礎知識 ・口腔ケアのニード、援助の必要性および方法 ・陰部ケアのニード、援助の必要性および方法			課題：口腔ケアの『行動と根拠』・ レポート 《関連科目》 日常生活援助技術Ⅱ (排泄):おむつ交換の校内演習で陰部 洗浄の実際を体験する。	
7	・部分浴に必要な基礎知識・援助の留意点 ・手浴・足浴の援助の理解			課題：足浴の『行動と根拠』	
8	・臥床患者の足浴			校内演習・レポート	
9	1) 足浴の基本動作の理解 2) 状況に応じた足浴 (体位、皮膚の状態)				
10	・入浴・シャワー浴に必要な基礎知識 ・入浴に伴う危険とその要因、入浴・シャワー浴実施上の留意点				
11	・入浴・シャワー浴の援助			校内演習・レポート	
12	・頭皮・頭髪の清潔に必要な基礎知識				
13	・ケリーパッド洗髪の『行動と根拠』の検証 ・各種洗髪法の実際 (器具の特徴と実施上の留意点)			事前演習 (ケリーパッド洗髪) ケリーパッド洗髪の『行動と根拠』	
14	・臥床患者のケリーパッド洗髪の実際			校内演習・レポート	
15	1) 洗髪の基本動作の理解 2) ケリーパッドを使用した効果的な洗髪				

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 診療に関する援助技術 I (感染予防/周手術期看護/呼吸ケア)		単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材 ○系看 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護学技術 I (医学書院) ○系看 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護学技術 II (医学書院) ○看護技術プラクティス (学研) ○系看 別巻 臨床外科総論 (医学書院)	
担当講師名	感染予防 : 森 英恵 4 時間 野中 由香 8 時間 周手術期看護 : 野中 由香 12 時間 呼吸ケア : 西村 松美 6 時間		実務 経験	○ ○ ○ ○		
学習目標					成績評価の方法 筆記試験、レポート、出席状況、 授業態度、校内演習態度など	
〈感染予防〉					配点 感染予防 40 点 (10 30)	
1. 感染予防のための基本的知識が理解できる。					周手術期看護 40 点	
2. 感染予防のための基本的技術 (手洗い、個人防護具の着脱、無菌操作) を習得する。					呼吸ケア 20 点	
〈周手術期看護〉						
1. 手術を受ける患者・家族の特徴を理解する。						
2. 周手術期における看護の役割を理解すると共に、必要な基礎的知識・技術を習得する。						
〈呼吸ケア〉						
1. 酸素療法の意義と酸素療法を必要とする対象の援助が理解できる。						
2. 吸引の目的と方法を理解し、その援助の実際を学ぶ。						
回	授 業 計 画				備 考	
感染予防						
1	感染予防のための基礎知識		感染予防における看護師の責務と役割			
	1) 感染とは 2) 現代における感染の問題 3) 院内感染とは 4) 感染予防の意義 5) 感染予防に対する考え方					
2	感染予防のための基礎知識		6) 感染成立の 3 要素 7) 標準予防策 (スタンダードプリコーション) と感染経路別 予防策			
3	感染予防のための基礎知識		滅菌、消毒、洗浄について (滅菌物の管理、インジケータ、消毒薬)			
4	感染予防のための基本的技術の実際				演習	
5	1) 手洗い 2) 個人防護具 (PPE) の着脱 3) 無菌操作 4) 滅菌手袋の着脱					
6	感染予防のための基礎知識		感染性廃棄物の取り扱い 針刺し事故防止策			
周手術期看護						
7	手術療法とは		周手術期の看護：手術前の患者の看護			
8	周手術期の看護：手術中の看護		ME 機器と看護			
9	周手術期の看護：手術による身体侵襲と術後合併症					
10	周手術期の看護：手術後の患者の看護					
11	周手術期に必要な看護技術：創傷処置、包帯法、ドレーン管理					
12	周手術期に必要な看護技術の実際 校内演習		1) 創傷処置 包帯法 (腹帯、三角巾) 2) ドレーン管理		演習	
呼吸ケア						
13	酸素療法について					
14	吸引 (一時的吸引：口腔・鼻腔・気管内吸引・持続吸引) について					
15	酸素療法及び一時的吸引の実際 校内演習				演習	

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 看護過程と看護記録	単位	1 単位：30時間
対象 学生	1 年生 (22期生)	開講 時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門 基礎看護技術 I (医学書院)	
担当 講師名	糟谷 操子	実務 経験	○	○事例でわかる看護理論を看護過程に いかす本 (昭林社)	
学習目標				○検査値早わかりガイド (医学芸術社)	
1. 問題解決過程やクリティカルシンキングなどの看護過程の 基盤となる考え方について理解する。				○看護診断ハンドブック (医学書院)	
2. 看護過程を構成する5つの段階を理解する。				○疾患別看護過程の展開 (学研)	
3. 事例を通して、看護過程の基礎を理解する。				○今日の治療薬 (南江堂)	
4. 看護記録の目的や留意点、構成について理解する。				成績評価の方法 筆記試験 (60点) レポート (30点) 学習への取り組み (10点)	
回	授 業 計 画			備 考	
1	看護過程とは				
2	看護過程の基盤となる考え方 ①問題解決過程②クリティカルシンキング ③倫理的配慮と価値判断④リフレクション				
3	看護過程の各段階 ①アセスメント (情報の収集)				
4	看護過程の各段階 ①アセスメント (分析)			課題あり	
5	看護過程の各段階 ②看護問題の明確化 (看護診断・共同問題)				
6	看護過程の各段階 ③看護計画				
7	看護過程の各段階 ④実施 ⑤評価				
8	看護理論と看護過程 (ヘンダーソン、ロイ、オレム、ゴードン、NANDA)				
9	胃潰瘍事例のアセスメント			課題あり グループワーク	
10	胃潰瘍事例の看護問題の明確化 (看護診断・共同問題)			グループワーク・発表	
11	胃潰瘍事例の関連図			グループワーク・発表	
12	胃潰瘍事例の看護計画			課題あり グループワーク・発表	
13	肺炎患者の看護過程			冬季課題あり	
14	肺炎患者の看護過程まとめ			共有学習	
15	看護記録				

分野	専門分野	授業科目名	地域・在宅看護論 地域・在宅看護論概論	単位	1単位：30時間
対象学生	1年生（22期生）	開講時期	1年次 後期	テキスト、参考書、使用教材	
担当講師名	靄岡 イツ子	実務経験	○	○系看 地域・在宅看護の基盤（医学書院） 地域・在宅看護の実践（医学書院）	
授業の目標 1. 地域・在宅看護の意義を理解し、看護師の役割が考えられる。 2. 在宅看護の変遷・制度と地域ケアについて理解する。 3. 在宅における看護師の法律上の責任を理解する。 4. 地域・在宅看護の対象である療養者・家族と在宅看護の場を理解する。				成績評価の方法 筆記試験 100点 出席状況・授業態度	
回	授 業 計 画			備 考	
1	地域・在宅看護の対象				
2	地域におけるライフステージに応じた看護				
3	地域・在宅看護の対象としての家族				
4	家族の理解				
5	地域における暮らしを支える看護				
6	地域での暮らしにおける安全を守る看護				
7	暮らしの場で看護する心構え				
8	地域・在宅看護実践の場と連携①				
9	地域・在宅看護実践の場と連携②				
10	地域・在宅看護マネジメント 継続看護・退院支援				
11	地域・在宅看護に関わる制度①				
12	地域・在宅看護に関わる制度②				
13	地域・在宅看護に関わる制度③				
14	地域・在宅看護における看護過程				
15	地域・在宅看護活動の創造				

分野	専門分野	授業科目名	地域・在宅看護論 地域における暮らしの理解	単位	1単位:30時間
対象学生	1年生(22期生)	開講時期	1年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材	
担当講師名	樋口 香織 26時間 2時間 2時間	実務経験	○	○系看 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1(医学書院)	
授業の目標 1. 暮らしということを理解する。 2. 支えあって生きるということを理解する。 3. 地域の生活環境を理解することができる。				成績評価の方法 課題提出 フィールドワークレポート グループワーク・授業参加状況	
回	授業計画			備考	
1	人々の暮らしの理解				
2	地域・在宅看護の役割				
3	暮らしを理解する			事前課題あり	
4	暮らしと地域				
5	地域包括ケアシステムと地域共生社会				
6	地域マップ作成へのオリエンテーション、計画				
7	フィールドワーク①			長崎市各地域へ	
8	フィールドワーク②				
9 10	地域マップ作成				
11	地域マップ グループ発表会				
12	長崎市の暮らしを支える活動① ～長崎市包括ケアまちなかラウンジ～				
13	長崎市の暮らしを支える活動② ～長崎市社会福祉協議会～				
14	長崎市の暮らしを支える活動 グループ発表準備				
15	長崎市の暮らしを支える活動 グループ発表				

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 成人看護学概論	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 成人看護学(1) 成人看護学総論 (医学書院) ○国民衛生の動向 2023/2024	
担当講師名	平 よどみ	実務経験	○		
授業のねらい・学習目標				成績評価の方法	
1. 成人各期にある対象の身体・精神・社会的特徴をライフサイクル・発達課題・保健の動向を通して理解する。				・筆記試験	
2. 成人を看護するときの基本的アプローチについて理解する。				・グループワーク ・授業への参加状況	
回	授 業 計 画			備 考	
1	成人の理解 1) 成人とは 2) 生涯発達からみた大人 3) ライフサイクルの区分 4) 成人期の区分				
2	成人各期の特徴、発達課題について				
3	成人各期の健康 (生活、仕事、健康問題、社会背景)			グループワーク	
4	・グループワークの発表は、以降の講義で行う				
5	成人の生活 1) 生活について 2) 生活環境について 3) 仕事について 4) 成人各期における生活の特徴				
6	成人保健と今日の健康動向 1) 人口構成 2) 平均寿命と健康寿命 3) 受療状況 4) ヘルスプロモーション				
7	成人の健康 I 1) 健康の定義 2) 大人の健康 3) 健康観 4) 保健行動				
8	成人の健康 II 1) 日常生活の状況 2) 成人の健康状況 3) 成人各期の健康問題				
9	成人にみられる健康障害 I 生活習慣病とその予防				
10	成人にみられる健康障害 II				
11	1) 就業、労働形態 2) 身体不活動 3) 飲酒 4) 喫煙				
12	成人にみられる健康障害 III 1) 生活ストレス 2) ストレスと健康障害 3) ストレスコーピング				
13	成人の健康行動を生みはぐくむ援助 I 1) 成人教育学 (アンドラゴジー) 2) エンパワーメント教育				
14	成人の健康行動を生みはぐくむ援助 II 1) セルフケア				
15	成人の健康行動を生みはぐくむ援助 III 1) 自己効力感 全体のまとめ				

分野	専門分野	授業科目名	老年看護学 老年看護学概論	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生（22 期生）	開講時期	1 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 老年看護学 (医学書院)	
担当講師名	本多 麻友美	実務経験	○		
学習目標 1. 老年期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2. 社会構造の変化や人口の高齢化に伴う保健医療福祉の役割とそのシステムを理解する。 3. 老年看護の基本となる考え方を学ぶ。				成績評価の方法 レポート、筆記試験、出席状況 授業態度など	
回	授 業 計 画			備 考	
1	老年期とは・老年看護のなりたち				
2	〃				
3	高齢社会の統計的輪郭	老年者疑似体験オリエンテーション			
4	高齢者の生活疑似体験			演習	
5	〃			演習 グループワーク	
6	身体の高齢変化とアセスメント				
7	〃				
8	高齢に伴う心理的・社会的側面の変化				
9	〃				
10	高齢社会における保健医療福祉の動向				
11	介護保険システムについて（介護保険制度のしくみ）				
12	退院支援・退院調整（フレイル）				
13	高齢社会における権利擁護（高齢者虐待、成年後見制度）				
14	〃（身体への拘束）				
15	老年看護のめざすもの（多職種連携、意思決定支援など）				

分野	専門分野	授業科目名	小児看護学 小児看護学概論	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 小児看護学1 小児概論・臨床総論 (医学書院)	
担当講師名	田原 えりか	実務経験	○	○国民衛生の動向	
授業のねらい・学習目標				成績評価の方法	
1. 小児期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2. 小児を取り巻く環境（地域）と現状を理解するとともに、小児看護の役割について理解する。 3. 小児の成長発達に応じた養育および看護について理解する。 4. 小児期にある対象に関心を持ち、小児看護に対する自分の考え（子ども観）を養うことができる。				筆記試験 レポート 出席状況・授業態度	
回	授 業 計 画			備 考	
1	『小児看護の対象』について			グループワーク発表	
2	・小児看護の対象 ・小児看護の役割 ・小児医療 ・小児看護の変遷と動向				
3	『子どもの人権と看護』について			グループワーク発表	
4	子どもの人権と看護				
5	統計から見た子どもの健康				
6	『地域で暮らす子どもを取り巻く環境』（社会、家族）について			新聞記事レポート グループワーク	
7	法律と政策				
8	『地域で暮らす子どもを取り巻く環境』（社会、家族）について			グループワーク発表	
9	・成長・発達の原則 ・形態的成長発達				
10	・機能的成長				
11	・心理、社会的発達 ・発達の評価				
12	『小児の発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援について』			グループワーク	
13	『小児の発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援について』			グループワーク発表	
14	発達段階に応じた成長・発達における生活への支援				
15	発達段階に応じた成長・発達における生活への支援				

分野	専門分野	授業科目名	母性看護学 母性看護学概論	単位	1 単位 : 30 時間
対象学生	1 年生 (22 期生)	開講時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論 (医学書院)	
担当講師名	吉本 直子	実務経験	○	○国民衛生の動向	
学習目標 ・母性看護の基盤となる概念を学び、母性看護における健康とは何か考える。 ・母子保健施策や統計から母性看護の対象を取り巻く特徴を理解する。 ・性と生殖の視点でライフステージ各期における健康問題について考え、母性看護の役割を理解する。				評価の方法 筆記試験 グループワーク、レポート 授業態度	
回	授 業 計 画				備 考
1	母性看護の基盤となる概念① 母性看護とは				
2	母性看護の基盤となる概念② セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス				
3	リプロダクティブヘルスケア 性感染症とその予防				
4	リプロダクティブヘルスケア 家族計画				
5	リプロダクティブヘルスケア 人工妊娠中絶と看護				
6	母子保健統計からみた動向				国民衛生の動向
7	母性看護に関する法律				
8	母子保健施策からみた現状				国民衛生の動向
9	母性看護の倫理と役割				
10	ライフステージ各期における看護について				グループワーク
11	ライフステージ各期における看護について				グループワーク
12	ライフステージ各期における看護 乳幼児期・学童期の健康と看護				グループワーク 発表
13	ライフステージ各期における看護 思春期の健康と看護				グループワーク 発表
14	ライフステージ各期における看護 成熟期の健康と看護				グループワーク 発表
15	ライフステージ各期における看護 更年期・老年期の健康と看護				グループワーク 発表

分野	専門分野	授業科目名	精神看護学 精神看護学概論	単位	1単位：30時間
対象学生	1年生（22期生）	開講時期	1年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材 ○系看専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎（医学書院） ○系看専門分野 精神看護学2 精神看護の展開（医学書院）	
担当講師名	川根 明日美	実務経験	○		
授業のねらい・学習目標				成績評価の方法	
1. 精神看護の基本的な考え方について理解することができる。 2. 精神保健及び精神障害者福祉の変遷を、歴史的・社会的・医療的見地から理解することができる。				レポート、試験	
回	授 業 計 画			備 考	
1	この授業のめざすもの 精神看護学とは 精神の健康とは				
2	人間のこころのはたらき ①				
3	人間のこころのはたらき ②				
4	ストレスとコーピング・危機と危機介入				
5	家族とこころの健康～社会的側面から理解する～				
6	ライフサイクルと精神保健① 胎児期～学童期の発達の危機			GW発表	
7	ライフサイクルと精神保健② 思春期～成人期			〃	
8	ライフサイクルと精神保健③ 中年期～老年期			〃	
9	様々な社会精神病理① 依存症			〃	
10	様々な社会精神病理② 犯罪・非行・虐待・暴力・いじめ・DV			〃	
11	様々な社会精神病理③ 自殺と自殺予防・PTSD			〃	
12	様々な社会精神病理④ 災害と精神看護			〃	
13	精神障害者 その処遇と歴史				
14	精神障害と法制度①				
15	精神障害と法制度② リエゾン精神看護				

2 年次履修科目

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

教 育 課 程

(第1看護学科)

区分・内容	授 業 科 目	単 位 (時間数)	区分・内容	授 業 科 目	単 位 (時間数)		
基礎分野	基盤科学的思考の	論理学	1 (30)	成人看護学	成人看護学概論	1 (30)	
		情報科学Ⅰ (情報通信技術活用の基礎)	1 (30)		救急医療と看護	1 (15)	
		情報科学Ⅱ (情報通信技術活用法)	1 (15)		手術療法と看護	1 (30)	
		教育学	1 (30)		セルフマネジメントの支援	1 (30)	
	人間と生活・社会の理解	文学	1 (15)		緩和ケア	1 (30)	
		心理学	1 (30)		生活行動障害と看護 (呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)	1 (15)	
		人間関係論	1 (30)		小計	6 (150)	
		社会学	1 (15)		老年看護学	老年看護学概論	1 (30)
		英語Ⅰ	2 (45)			老年看護援助技術	1 (30)
		英語Ⅱ (日常会話)	1 (15)			老年期に特有な障害と看護	2 (45)
		健康とレクリエーション体育	2 (45)	小計		4 (105)	
		看護コミュニケーション論	1 (15)	小児看護学	小児看護学概論	1 (30)	
	合 計	14 (315)	小児看護援助技術		1 (15)		
			小児期における健康障害		1 (30)		
		小児期における看護	1 (30)				
専門基礎分野	疾人病体の成り立ちと機能回復の促進	人体の構造としくみ	2 (45)	母性看護学	母性看護学概論	1 (30)	
		人体の生理機能	2 (45)		周産期の経過/新生児の看護	1 (30)	
		代謝栄養学 (生化学/栄養学)	2 (45)		妊婦・産婦・褥婦の看護	1 (30)	
		疾病の成り立ち (病理学)	1 (30)		リプロダクティブヘルス	1 (15)	
		疾病論Ⅰ (呼吸/循環)	1 (30)	小計	4 (105)		
		疾病論Ⅱ (消化器/内分泌・代謝)	1 (30)	精神看護学	精神看護学概論	1 (30)	
		疾病論Ⅲ (血液造血/免疫/腎)	1 (30)		精神障害と治療法	1 (30)	
		疾病論Ⅳ (脳神経/運動器)	1 (30)		精神障害の看護援助	2 (45)	
		疾病論Ⅴ (手術療法/泌尿器/女性生殖器)	1 (30)		小計	4 (105)	
		疾病論Ⅵ (眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔)	1 (30)	看護の統合と実践	災害看護	1 (15)	
		疾病論Ⅶ (微生物学・感染症)	1 (30)		看護マネジメントと国際看護	1 (15)	
		治療総論 (薬理学)	1 (30)		医療安全	1 (30)	
		看護の臨床判断	1 (15)		多職種連携・協働	1 (15)	
		小計	22 (525)		看護研究	1 (15)	
	健康障害支度と社会	医療倫理	1 (30)	小計	5 (90)		
		社会福祉	2 (30)	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ (病院での生活を理解する実習)	2 (90)	
		地域保健論	1 (15)		基礎看護学実習Ⅱ (日常生活援助の実習)	1 (45)	
		関係法規	2 (30)		基礎看護学実習Ⅲ (看護過程を活用する実習)	2 (90)	
		合 計	22 (525)		小計	5 (225)	
			地域・在宅看護論実習Ⅰ (施設での生活を理解する実習)		2 (90)		
	専門分野	基礎看護学	看護学概論		1 (30)	地域・在宅看護論実習Ⅱ (在宅での療養生活を理解する実習)	2 (90)
			フィジカルアセスメント		1 (30)	成人・老年看護学実習Ⅰ (あらゆる健康段階)	2 (90)
日常生活援助技術Ⅰ (生活環境/活動と休息)			1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅱ (周手術期・急性期)	2 (90)	
日常生活援助技術Ⅱ (栄養と食生活/排泄)			1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅲ (退院支援)	2 (90)	
日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)			1 (30)		小児看護学実習	2 (90)	
診療に関する援助技術Ⅰ (感染予防/周手術期看護/呼吸ケア)			1 (30)		母性看護学実習	2 (90)	
診療に関する援助技術Ⅱ (薬物療法と看護)			1 (30)	精神看護学実習	2 (90)		
診療に関する援助技術Ⅲ (検査と看護/放射線療法と看護/食事療法)			1 (30)	看護の統合実習	2 (90)		
看護過程と看護記録			1 (30)	小計	18 (810)		
臨床判断と看護実践			2 (45)	講義合計	80 (1,965)		
小計			11 (315)		実習合計	23 (1,035)	
地域・在宅看護論		地域・在宅看護論概論	1 (30)			総 計	103 (3,000)
		在宅看護における基本援助論	2 (45)				
		家族看護論	1 (30)				
	地域における暮らしの理解	1 (30)					
	在宅看護における医療処置	1 (15)					
小計	6 (150)						

教育課程一覽 (進度表)

21期生

教育内容		授業科目	単位	時間数	1年次		2年次		3年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基礎	論理学	1	30						
		情報科学Ⅰ (情報通信技術活用の基礎)	1	30						
		情報科学Ⅱ (情報通信技術活用法)	1	15						
		教育学	1	30						
	人間と生活・社会の理解	文学	1	15						
		心理学	1	30						
		人間関係論	1	30						
		社会学	1	15						
		英語Ⅰ	2	45						
		英語Ⅱ (日常生活)	1	15						
		健康とレクリエーション体育	2	45						
		看護コミュニケーション論	1	15						
		合計	14	315	10 (240)		4 (75)			
		専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	人体の構造としくみ	2	45				
人体の生理機能	2			45						
代謝栄養学 (生化学/栄養学)	2			45						
疾病の成り立ち (病理学)	1			30						
疾病論Ⅰ (呼吸/循環)	1			30						
疾病論Ⅱ (消化器/内分泌・代謝)	1			30						
疾病論Ⅲ (血液造血/免疫/腎)	1			30						
疾病論Ⅳ (脳神経/運動器)	1			30						
疾病論Ⅴ (手術療法/泌尿器/女性生殖器)	1			30						
疾病論Ⅵ (眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔)	1			30						
疾病論Ⅶ (微生物学・感染症)	1			30						
治療総論 (薬理学)	1			30						
看護の臨床判断	1			15						
医療倫理	1			30						
健康支援と社会保障制度	社会福祉		2	30						
	地域保健論		1	15						
	関係法規		2	30						
	合計		22	525	13 (345)		6 (135)		3 (45)	
専門分野	基礎看護学		看護学概論	1	30					
			フィジカルアセスメント	1	30					
			日常生活援助技術Ⅰ (生活環境/活動と休息)	1	30					
			日常生活援助技術Ⅱ (栄養と食生活/排泄)	1	30					
		日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)	1	30						
		診療に関する援助技術Ⅰ (感染予防/周手術期看護/呼吸ケア)	1	30						
		診療に関する援助技術Ⅱ (薬物療法と看護)	1	30						
		診療に関する援助技術Ⅲ (検査と看護/放射線療法と看護/食事療法)	1	30						
		看護過程と看護記録	1	30						
		臨床判断と看護実践	2	45						
		小計	11	315	7 (210)		4 (105)			
		地域・在宅看護論	地域・在宅看護論概論	1	30					
			在宅看護における基本援助論	2	45					
			家族看護論	1	30					
	地域における暮らしの理解		1	30						
	在宅看護における医療処置		1	15						
	小計		6	150	2 (60)		4 (90)			
	成人看護学	成人看護学概論	1	30						
		救急医療と看護	1	15						
		手術療法と看護	1	30						
		セルフマネジメントの支援	1	30						
		緩和ケア	1	30						
		生活行動障害と看護 (呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)	1	15						
	小計	6	150	1 (30)		5 (120)				
	老年看護学	老年看護学概論	1	30						
		老年看護援助技術	1	30						
		老年期に特有な障害と看護	2	45						
		小計	4	105	1 (30)		3 (75)			
	小児看護学	小児看護学概論	1	30						
		小児看護援助技術	1	15						
		小児期における健康障害	1	30						
		小児期における看護	1	30						
	小計	4	105	1 (30)		3 (75)				
	母性看護学	母性看護学概論	1	30						
		周産期の経過/新生児の看護	1	30						
		妊婦・産婦・褥婦の看護	1	30						
		リプロダクティブヘルス	1	15						
	小計	4	105	1 (30)		3 (75)				
	精神看護学	精神看護学概論	1	30						
		精神障害と治療法	1	30						
		精神障害の看護援助	2	45						
		小計	4	105	1 (30)		3 (75)			
看護の統合と実践	災害看護	1	15							
	看護マネジメントと国際看護	1	15							
	医療安全	1	30							
	多職種連携・協働	1	15							
	看護研究	1	15							
	小計	5	90			1 (15)		4 (75)		
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ (病院での生活を理解する実習)	2	90							
	基礎看護学実習Ⅱ (日常生活援助の実習)	1	45							
	基礎看護学実習Ⅲ (看護過程を活用する実習)	2	90							
	小計	5	225	2 (90)		3 (135)				
	地域・在宅看護論実習Ⅰ (施設での生活を理解する実習)	2	90							
	地域・在宅看護論実習Ⅱ (在宅での療養生活を理解する実習)	2	90							
	成人・老年看護学実習Ⅰ (あらゆる健康段階)	2	90							
	成人・老年看護学実習Ⅱ (周手術期・急性期)	2	90							
	成人・老年看護学実習Ⅲ (退院支援)	2	90							
	小児看護学実習	2	90							
	母性看護学実習	2	90							
	精神看護学実習	2	90							
	看護の統合実習	2	90							
	小計	18	810			2 (90)		16 (720)		
合計	67	2160	16 (510)		31 (855)		20 (795)			
	講義合計	80	1965	37 (1005)		36 (840)		7 (120)		
	実習合計	23	1035	2 (90)		5 (225)		16 (720)		
	総計	103	3000	39 (1095)		41 (1065)		23 (840)		

分野	基礎分野	授業科目名	情報科学Ⅱ (情報通信技術活用方法)	単位	1単位：15時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○医学書院 系統看護学講座 別巻 看護情報学	
担当講師名	田中 準一	実務経験	○		
学習目標				成績評価の方法	
1. 「情報」と「コミュニケーション」の特徴が説明できる 2. 個人情報利用と保護、情報セキュリティについて説明できる 3. 患者が情報に基づいて意思決定するための支援方法が説明できる 4. 信頼できる情報の見分け方について説明できる 5. 情報通信技術を活用することができる				試験	
回	授業計画			備考	
1	情報とは何か(情報の定義と特徴、社会と情報)			・ソーシャルメディアの使い方	
2	情報のいかし方(保健医療と情報、看護と情報、医療情報システム)			・ソーシャルメディアのトラブル	
3	情報の守り方(情報と倫理、患者の権利と情報、個人情報の保護)			・健康医療情報と患者支援	
4	情報モラルに関して①(情報収集方法、課題提示)				
5	情報モラルに関して②(情報収集・プレゼンテーション作成)				
6	情報モラルに関して③(情報収集・プレゼンテーション作成)				
7	発表・まとめ				
8	ヘルスリテラシー				

分野	基礎分野	授業科目名	教育学	単位	1単位:30 時間
対象学生	2 年生(21 期生)	開講時期	2 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等	
担当講師名	平田 勝政	実務経験	—	毎回、手作りの資料を配布する。 参考書は、その都度紹介する。	
学習目標 教育学は、人間形成の学である。病気や障害のある人間と向き合う未来の看護系医療技術者(その前提である一人の人間)として、自他に対する教育的な視点を持つことはきわめて重要である。本授業を通して、人間理解に必要な教育学的専門基礎知識と教育的なものの方・考え方が身につくことをねらいとする。				成績評価の方法 出席状況と試験の結果を総合して評価する。	
回	授 業 計 画			備 考	
1	教育とは何か、なぜ学ぶのか				
2	教育の歴史①(戦前日本の教育)				
3	教育の歴史②(戦前の教育から戦後の教育へ)				
4	教育の歴史③(戦後教育の展開)				
5	人間発達と教育①(発達観の諸相)				
6	人間発達と教育②(生涯発達と学校教育・家庭教育・社会教育の役割)				
7	人間発達と教育③(キャリア発達とキャリア教育)				
8	人間発達と教育④(障害のある子どもの発達観の変遷)				
9	特別支援教育①(障害のある人の教育の歴史)				
10	特別支援教育②(障害とは何か) //				
11	特別支援教育③(障害のある人の権利条約と教育)				
12	共生と教育①(共生思想の諸相)				
13	共生と教育②(排除から共生への歩み)				
14	共生と教育③(共生社会の建設と教育の課題)				
15	試験				

分野	基礎分野	授業科目名	英語Ⅱ（日常会話）	単位	1単位：15時間
対象学生	2年生（21期生）	開講時期	2年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 Speaking of Nursing（南雲堂）	
担当講師名	大坪 有実	実務経験	—		
授業のねらい・学習目標 入院時、通院時の外国人患者様との様々なシチュエーション会話例文を学び、患者様との円滑なコミュニケーションがとれるようになる。				成績評価の方法 定期試験	
回	授 業 計 画			備考	
1	Asking Basic Questions A Patient's First Visit			CDプレイヤー	
2	Where's Internal Medicine? Admission to the Hospital			CDプレイヤー	
3	Giving Information Symptoms			CDプレイヤー	
4	Injuries and Emergencies How Are You Feeling?			CDプレイヤー	
5	A Patient's Medical History Medicine			CDプレイヤー	
6	I'm Going to Give You an IV Congratulations! You're Having a Baby Girl			CDプレイヤー	
7	Review			CDプレイヤー	
8	定期試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

2023年度シラバス

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病の成り立ち (病理学)	単位	1単位：30時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 前期(A組) 後期(B組)	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門基礎 病理学 疾病 の成り立ちと回復の促進① (医学書院)	
担当講師名	松田 勝也	実務経験	○		
学習目標 疾病の原因・発生機序と生体に現れる変化を理解する。				成績評価の方法 筆記試験 レポート	
回	授 業 計 画			備 考	
1	病因論(松田)				
2	細胞・組織の障害と修復(松田)				
3	循環障害(松田)				
4	循環障害(松田)				
5	炎症と免疫, 移植と再生医療(松田)				
6	炎症と免疫, 移植と再生医療(松田)				
7	感染症(松田)				
8	代謝障害(松田)				
9	先天異常と遺伝子異常(松田)				
10	腫瘍(松田)				
11	腫瘍(松田)				
12	組織実習(医学部)(松田/)				
13					
14	解剖実習(医学部)(松田/ /)				
15					

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病論VI (眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔)		単位	1単位:30時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 前期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看専門分野 成人看護学⑬ 眼(医学書院) ○系看専門分野 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉(医学書院) ○系看専門分野 成人看護学⑫ 皮膚(医学書院) ○系看専門分野 成人看護学⑮ 歯・口腔(医学書院)	
担当講師名	眼 :宮城 清弦 8時間 耳鼻咽喉:宮本 育江 8時間 皮膚 : 8時間 口腔 :久松 徳子 6時間		実務 経験		○ ○ ○ ○	
学習目標 感覚器の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得する。					成績評価の方法 筆記試験 眼 :25点 耳鼻咽喉:25点 皮膚 :25点 口腔 :25点	
回	授業計画					備考
眼						
1	眼の構造と機能、検査法					
2	結膜、角膜の疾患					
3	白内障、緑内障					
4	糖尿病網膜症、網膜剥離					
耳鼻咽喉						
5	総論(耳鼻咽喉科とは?)・解剖(耳・鼻・咽頭)					
6	喉頭の解剖・中耳の疾患					
7	聴力検査・内耳の疾患・アレルギー性鼻炎					
8	副鼻腔炎・咽頭・喉頭の疾患・頭頸部癌					
皮膚						
9	皮膚科とは? 原発疹・続発疹・皮膚検査・治療					
10	湿疹及び皮膚炎群・薬疹・中毒疹・水疱症・角化症					
11	腫瘍・母斑症・感染症・膠原病					
12	皮膚癌における癌告知とインフォームド・コンセント					
口腔						
13	口腔疾患					
14	口腔疾患と歯科治療概論					
15	摂食・嚥下障害とリハビリテーション					

分野	専門基礎分野	授業科目名	看護の臨床判断		単位	1 単位：15 時間
対象学生	2 年生 (21 期生)	開講時期	2 年次 前期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護専門分野 I 臨床看護総論 ○検査値早わかりガイド (サイオ出版)	
担当講師名	本田 和也		実務経験	○		
学習目標 1. 臨床判断の基盤となる「気づき、解釈、反応、省察」の考え方を理解する。 2. 科学的根拠に基づく分析的・論理的思考の基本を理解する。 3. 臨床判断能力に必要な科学的根拠を理解する。					成績評価の方法 筆記試験 レポート グループワーク参加態度 グループ発表内容	
回	授 業 計 画				備 考	
1	看護の臨床判断とは 看護の臨床判断の必要性				合同講義	
2	臨床判断のプロセス① (気づき・解釈)				合同講義	
3	臨床判断のプロセス② (反応・省察)				合同講義	
4	事例を用いた臨床判断のプロセスについて				合同講義	
5	臨床判断能力に必要な科学的根拠と批判的・論理的思考について				合同講義	
6	事例を用いた臨床判断のプロセスに関する検討				グループワーク クラス別	
7	臨床判断のプロセスについての発表				グループ発表 (合同)	
8	看護の臨床判断の必要性、まとめ				合同講義	

分野	専門基礎分野	授業 科目名	医療倫理	単位	1単位:30 時間
対象 学生	2 年生 (21 期生)	開講 時期	2 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材 ○テキストは使用しません。 ○講義と映像教材。 ○質問等があれば下記のメール でも受け付けます。 shshino@nagasaki-u.ac.jp	
担当 講師名	篠原 駿一郎	実務 経験	—		
学習目標 人々の心身の健康と福祉に貢献すべき医療従事者には優れた人間性が求められる。とりわけ、多様な価値を有する患者と接する医療現場にあつては、高度な知識と技術だけでなく、それぞれの患者に即した深い人間理解が必要である。倫理に裏打ちされた医療を考えること、これを学習の目標とする。				成績評価の方法 授業への熱意と期末テスト 100 点	
回	授 業 計 画			備 考	
1	伝統的医療倫理				
2	現代の医療倫理(生命倫理)①				
3	現代の医療倫理(生命倫理)②				
4	生殖医療の倫理①				
5	生殖医療の倫理②				
6	病気治療の倫理①				
7	病気治療の倫理②				
8	病気治療の倫理③				
9	先端医療の倫理①				
10	先端医療の倫理②				
11	終末期医療の倫理①				
12	終末期医療の倫理②				
13	医療と社会①				
14	医療と社会②				
15	テスト				

分野	専門基礎分野	授業科目名	社会福祉	単位	2単位：30時間
対象学生	2年生（21期生）	開講時期	2年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門基礎分野	
担当講師名	飛永 高秀	実務経験	—	健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉（医学書院）	
授業のねらい・学習目標 コメディカルである看護師が、対象である「患者」をよりよく理解するために「生活者」という視点で改めて捉え直し、社会福祉の制度と生活理解を深めることをねらいとし、他職種連携が円滑に行えるよう広い視野を持てるようにすることを目標とする。				成績評価の方法 講義に対する姿勢等と試験結果によって総合的に評価する。	
回	授 業 計 画			備 考	
1	看護職が社会福祉を学ぶ意味について				
2	社会保障制度①				
3	社会保障制度②				
4	低所得者福祉①				
5	低所得者福祉②				
6	子ども家庭福祉①				
7	子ども家庭福祉②				
8	障がい児・者福祉①				
9	障がい児・者福祉②				
10	高齢者福祉①				
11	高齢者福祉②				
12	高齢者福祉③				
13	社会福祉実践と援助理論・方法①				
14	社会福祉実践と援助理論・方法②				
15	まとめ・試験				

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 診療に関する援助技術Ⅱ (薬物療法と看護)		単位	1単位：30時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 前期		テキスト、参考書、使用教材等	
担当講師名	薬物療法と看護： 大村 康子 30時間		実務経験	○	○系看護専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) ○看護技術プラクティス(学研)	
学習目標					成績評価の方法	
1. 薬物療法に必要な基礎的知識と看護師の役割が理解できる。 2. 各与薬法の特徴を理解し、安全に実施するための基礎的技術・態度を習得する。 3. 薬物療法における医療安全と法的責任について理解できる。 4. 輸血の基本的事項を学ぶ					筆記試験・レポート 校内演習出席状況、参加態度	
回	授 業 計 画					備考
薬物療法と看護						
1	・与薬の基礎知識(薬物動態、吸収経路、吸収速度)					
2	・薬物療法における看護師の役割と責任(与薬方法、薬剤管理、医療安全)					
3	・薬物療法と看護(経口与薬)					
4	・薬物療法と看護(吸入、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬)					
5	・注射の基礎知識(目的、種類、特徴) ・注射器具の基礎知識(注射器、注射針の種類と構造)					
6	・注射器具・注射薬の取り扱いの実際					演習 レポート
7	・皮下、筋肉内、皮内注射と看護					課題レポート
8	・皮下注射の実際(シミュレーターでの実施)					演習 レポート
9	・筋肉内注射の実際(シミュレーターでの実施)					
10	・静脈内、点滴静脈内注射と看護①					課題レポート
11	・静脈内、点滴静脈内注射と看護②					
12	・点滴静脈内注射の実際(シミュレーターでの実施)、管理					演習 レポート
13	・輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い					
14	・輸血の基礎知識と看護					
15	・まとめ					

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 診療に関する援助技術Ⅲ (検査と看護/放射線療法と看護 /食事療法)			単位	1 単位：30 時間
対象学生	2 年生 (21 期生)	開講時期	2 年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等 医学書院	
担当講師名	臨床検査：伊東山 勤 山本 由佳子 検査(看護)：深松 亜紀子 放射線療法：吉田 昌子 食事療法：池田 直美	4 時間 2 時間 12 時間 6 時間 6 時間	実務 経験	○ ○ ○ ○ ○	○系看専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 ○系看 別巻 臨床放射線医学 ○系看 別巻 栄養食事療法 ○看護技術プラクティス(学研)		
学習目標						成績評価の方法	
1. 検査に必要な基礎的知識と看護師の役割が理解できる。 2. 放射線療法に必要な基礎的知識と看護師の役割が理解できる。 3. 看護実践に必要な食事療法の基礎的知識が理解できる。						筆記試験・演習参加状況 検査(看護)：40 点 放射線療法と看護：30 点 食事療法：30 点	
回	授 業 計 画					備考	
臨床検査							
1	臨床検査とは 臨床検査の役割 検査に用いる器具と薬品 検体の取り扱い方						
2	腫瘍マーカー・炎症マーカー 検査報告書						
3	臨床検査(心電図・呼吸機能)						
検査(看護)							
4	検査の目的・種類 検査を受ける対象者の心理 検査における看護師の役割						
5	検査時の看護①						
6	検査時の看護②						
7	静脈血採血：技術と安全管理						
8 9	演習(シミュレーターを使った採血演習)					演習	
放射線療法と看護							
10	放射線療法について						
11	放射線による障害と防護						
12	放射線治療を受ける患者の看護						
食事療法							
13	食事療法の意義・栄養サポートチームにおける役割分担他 自分自身の食事を見直すために、病人食の特徴と種類 コントロール食、食事、栄養評価法、栄養成分別食事管理、						
14	栄養代謝性疾患の食事療法						
15	循環器疾患・腎泌尿器疾患・消化器疾患の食事療法						

分野	専門分野	授業 科目名	基礎看護学 臨床判断と看護実践		単位	2単位：45時間
対象 学生	2年生（21期生）	開講 時期	2年次 前期・後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○看護技術プラクティス（学研） ○系看護専門分野 臨床看護総論	
担当講 師名	健康段階 呼吸困難 消化器・排泄障害、意識障害	: 深松 亜紀子：8時間 : 樋口 香織：12時間 : 徳永 智子：25時間	実務 経験	○ ○ ○		
学習目標					評価の方法 筆記試験 演習（参加姿勢・態度） 授業態度（個人学習、グループワーク、記録提出状況） ・健康段階 20点 ・呼吸困難 30点 ・消化器・排泄障害、意識障害 50点	
1. 分析的・論理的思考に基づいた状況判断ができる。						
2. 瞬時に考え実践するための臨床判断の方法を習得する。						
回	授 業 計 画				備 考	
1	I. 健康段階の経過に基づく看護 1. 急性期における看護 迅速な観察と適切な判断・対応				講義	
2	2. 慢性期における看護 合併症の予防と良好な状態の維持				講義	
3	3. リハビリテーション期における看護 生じやすい二次障害（廃用症候群）の予防				講義	
4	4. 終末期における看護 変化していく症状の観察と適切な判断・対応				講義	
5	II. 症状の変化に対する対象者への看護 1. 呼吸困難のある患者の理解					
6	1) 呼吸困難のある患者の看護を考える（アセスメント）					
7	2) 呼吸困難のある患者の援助計画					
8	3) 呼吸困難のある患者への看護実践				演習 呼吸法	
9	4) 呼吸困難のある患者への看護実践				演習 体位ドレナージ	
10	リフレクション					
11	2. 消化器・排泄障害（便秘・嘔吐）のある患者の理解				事例提示 A：麻痺性イレウス B：癒着性イレウス	
12	1) 便秘、嘔吐のある患者の看護を考える（アセスメント）					
13	2) 便秘、嘔吐のある患者の援助計画					

14	3) 便秘、嘔吐のある患者への看護実践	演習
15	4) 便秘、嘔吐のある患者への看護実践	演習
16	リフレクション	
17	3. 意識障害のある患者の理解	事例提示 A: くも膜下出血 B: 脳梗塞
18	1) 意識障害のある患者の看護を考える (アセスメント)	
19	2) 意識障害のある患者の援助計画	
20	3) 意識障害のある患者への看護実践	演習 観察 (意識レベル他)
21	4) 意識障害のある患者への看護実践	演習
22	リフレクション	
23	まとめ	

分野	専門分野	授業科目名	地域・在宅看護論 在宅看護における基本援助論		単位	2単位:45時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 (医学書院) ○系看 専門分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉(医学書院)	
担当講師名	基本援助 : 轟岡 イツ子 社会資源 :	14時間 4時間		○		
	機能訓練 :	4時間	実務経験			
	主な在宅看護:	10時間				
	在宅看護過程: 樋口 香織	13時間		○		
学習目標					成績評価の方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における基本的姿勢や基本技術について理解する。 2. 在宅で生活している人への社会資源の活用について理解する。 3. 在宅看護を実践するための基本的な日常生活援助について習得する。 4. 在宅療養者の主な看護が理解できる。 5. 事例をとおし、在宅看護の問題を理解し、看護計画立案をすることができる。 6. 事例をとおし、在宅看護における家族の意味や介護上の役割について理解できる。 					筆記試験 校内演習参加状況 出席状況 ・基本援助 :30点 ・社会資源 :10点 ・主な在宅看護:30点 ・在宅看護過程:30点	
回	授業計画				備考	
基本援助						
1	基本的な日常生活援助 ・在宅における食への援助 ・在宅における排泄への援助					
2	基本的な日常生活援助 ・生活の場を整える ・在宅でよくみられる感染症					
3 4	基本的な日常生活援助 ・在宅における清潔への援助Ⅰ (洗髪)				演習	
5 6	基本的な日常生活援助 ・在宅における清潔への援助Ⅱ (シャワー浴介助)				演習	
7	基本的な日常生活援助 在宅における清潔への援助Ⅱ(シャワー浴介助のグループ発表)					
社会資源						
8	社会資源の活用 居宅介護支援事業所の活動とケアマネジャーの役割					
9	地域包括支援センターの活動と地域包括ケアシステム					
機能訓練						
10	ベッド上での体位変換、起居動作、移乗動作の介助演習(4階実習室)				演習	
11	床上起居動作と入浴、排泄動作の介助演習(6階在宅室)				演習	

回	授 業 計 画	備 考
主な在宅看護		
12	訪問看護の現状・導入時期別特徴	
13	療養をしている小児の看護・独居者への支援	
14	呼吸器疾患を患っている療養者の看護	
15	難病	
16	終末期の看護(看取り) 介護する人への支援	
在宅看護過程		
17	在宅看護過程の実際(事例を用いて) 事例による在宅看護過程の実際 情報収集と展開方法	事例:筋萎縮性側索硬化症(ALS)療養者と家族
18	事例による在宅看護過程の実際 ・看護過程展開	
19	事例による在宅看護過程の実際 ・看護診断と看護目標・看護計画立案	
20	事例による在宅看護過程の実際 ・ケアの方向性+看護計画立案(グループ学習)①	グループ学習
21	事例による在宅看護過程の実際 ・ケアの方向性+看護計画立案(グループ学習)②	グループ学習
22	事例による在宅看護過程の実際 ・グループ学習発表(事例について共有学習)	発表
23	事例による在宅看護過程の実際 ・まとめ	*45分

分野	専門分野	授業科目名	地域・在宅看護論 家族看護論		単位	1 単位：30 時間
対象学生	2 年生 (21 期生)	開講時期	2 年次 前期・後期		テキスト、参考書、使用教材 ○系統看護学講座 別巻 家族看護学	
担当講師名	森藤香奈子 :18 時間 永江誠治 :4 時間 本多直子 :4 時間 神徳備子 :4 時間		実務 経験	○ ○ ○ ○		
学習目標				成績評価の方法		
1. 看護の対象としての家族の特性が説明できる。 2. 家族の発達段階の課題と支援の必要性を説明できる。 3. 様々な健康課題を有する家族へに対してアセスメントの視点を列挙できる。				1~6 回の授業レスポンス：5 点×6 回=30 点 急性期 10 点 慢性期、母性、小児、精神（各 2 回） ：15 点×4 領域=60 点 計 100 点 ※スマートフォンを使用して、授業レポートを提出するので、準備すること。スマートフォンをもっていない学生、忘れた学生はその旨申し出て下さい。		
回	授 業 計 画				備 考	
1	家族看護とは				森藤香奈子	
2	家族看護の対象理解				森藤香奈子	
3	家族看護を支える理論と介入方法①				森藤香奈子	
4	家族看護を支える理論と介入方法②				森藤香奈子	
5	家族看護過程の方法①（視点・枠組み・情報収集・アセスメント）				森藤香奈子	
6	家族看護過程の方法②（看護問題の明確化・計画立案・実施）				森藤香奈子	
7	事例に基づく家族看護学の実践（急性期患者の家族看護）				森藤香奈子	
8	事例に基づく家族看護学の実践（慢性期患者の家族看護①）				森藤香奈子	
9	事例に基づく家族看護学の実践（慢性期患者の家族看護②）				森藤香奈子	
10	事例に基づく家族看護学の実践（慢性期患者の家族看護：小児①）				本多直子	
11	事例に基づく家族看護学の実践（慢性期患者の家族看護：小児②）				本多直子	
12	事例に基づく家族看護学の実践（周産期に関する家族看護①）				神徳備子	
13	事例に基づく家族看護学の実践（周産期に関する家族看護②）				神徳備子	
14	事例に基づく家族看護学の実践（精神疾患患者の家族看護①）				永江誠治	
15	事例に基づく家族看護学の実践（精神疾患患者の家族看護②）				永江誠治	

分野	専門分野	授業科目名	地域・在宅看護論 在宅看護における医療処置		単位	1単位：15時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護専門分野 地域・在宅看護論2 地域在宅看護の実践(医学書院) ○系看護専門分野 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器(医学書院) ○ビデオ 透析生活/新しい命をありがとう	
担当講師名	医療処置： 人工透析：堀内 清孝	2時間 4時間 4時間 5時間	実務 経験	○		
学習目標 在宅看護の基本的な医療処置に伴う援助・状況に応じた看護について理解する。					成績評価の方法 筆記試験 医療処置：60点 人工透析：40点	
回	授業計画				備考	
医療処置						
1	在宅酸素療法・NPPV、在宅人工呼吸療法と排痰法					
2	褥瘡					
3	経管栄養・在宅中心静脈栄養法					
4	尿道留置カテーテル・ストーマ					
5	疼痛管理・緩和					
人工透析						
6	腎臓のしくみ、はたらき、急性腎不全、慢性腎不全について 透析導入期のビデオ					
7	透析療法、CAPD、血液透析について					
8	透析療法・日常管理について・腎移植について					

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 救急医療と看護			単位	1 単位 : 15 時間
対象学生	2 年生 (21 期生)	開講時期	2 年次 後期			テキスト、参考書、使用教材	
担当講師名	救急医療 : 本田 智治 救急看護 : 糟谷 操子	6 時間 9 時間	実務 経験	○ ○	○系看別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) ○系看別巻 救急看護学 (医学書院)		
学習目標 救急医療と看護 ・救急医療体制を理解できる。 ・救急医療における倫理的問題と看護師の役割が理解できる。 ・救急看護の対象の特徴を理解できる。 ・救急看護の対象と家族のおかれた状況 (体験) と必要な援助について理解できる。 ・救急時の対応が理解できる					成績評価の方法 1. 学習態度 2. 筆記試験 救急医療 : 40 点 救急看護 : 60 点		
回	授 業 計 画						備 考
救急医療							
1	救急医療について (救急処置の実際) *臨床外科看護総論						
2	外傷への対応 ショックへの対応 *救急看護学						
3	呼吸障害への対応 *救急看護学 脳死への対応 *救急看護学						
救急看護							
4	救急看護の定義と役割 救急医療体制 救急看護の対象と家族の理解						
5	一次救命処置の演習 応援要請の方法 胸骨圧迫・人工呼吸・AED						BLS 演習 (7階体育館)
6							
7	心肺停止状態への対応 意識障害への対応						
8	体温異常への対応 熱傷への対応						

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 手術療法と看護	単位	1 単位：30 時間
対象学生	2 年生 (21 期生)	開講時期	2 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) ○系看 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院) ○看護診断ハンドブック (医学書院) ○疾患別看護過程の展開 (学研)	
担当講師名	手術療法と看護(概論・各論) : 野中 由香 16 時間 腹部(食道)の手術を受ける人の看護: 本田 博之 2 時間 腹部(腹腔鏡下)の手術を受ける人の看護: 福井 陽子 2 時間 腹部(下部消化管)の手術を受ける人の看護: 前田 瑛彦 2 時間 胸部(肺)の手術を受ける人の看護 : (A)小林 亜希子 2 時間 (B)西 すみれ 2 時間 胸部(心臓)の手術を受ける人の看護: (A)中釜 祐子 2 時間 (B)山口 小百合 2 時間 頭部の手術を受ける人の看護 : 段下 大 4 時間		実務経験	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
学習目標	1. 手術療法を受ける人とその家族の健康問題と看護が理解できる。 2. 手術によりボディイメージに変化の生じた人と、その家族に対する看護が理解できる。 3. 様々な手術(腹部、胸部、頭部)を受ける人の看護が理解できる。 4. 手術療法を受ける人に特徴的な基礎看護技術を習得する。		成績評価の方法 演習(参加姿勢・態度) 筆記試験 概論・各論: 50 点 腹部の手術を受ける人の看護: 20 点 肺の手術を受ける人の看護: 10 点 心臓の手術を受ける人の看護: 10 点 頭部の手術を受ける人の看護: 10 点		
回	授 業 計 画			備考	
手術療法と看護(概論、各論)					
1	手術前の健康問題と看護				
2	手術後の健康問題と看護				
3	手術後の健康問題と看護				
4	乳がんで手術を受ける人の看護				
5	手術によりボディイメージに変化の生じた人およびその家族への看護				
6	胃がんで手術を受ける人の看護 事例展開①			課題レポート	
7	胃がんで手術を受ける人の看護 事例展開②			グループワーク	
8	手術療法を受ける人に特徴的な看護技術 術後1日目の全身清拭、寝衣交換、弾性ストッキング着脱			演習	
腹部の手術を受ける人の看護					
9	食道の手術を受ける人の看護				
10	腹腔鏡下手術を受ける人の看護 (腹腔鏡下術後特有の合併症の看護、胆嚢摘出術後の看護、胃切除後の看護)				
11	下部消化管手術を受ける人の看護 (人工肛門造設を受ける人の看護、低位前方切除術を受ける人の看護)				
胸部の手術を受ける人の看護					
12	肺・胸部の手術を受ける人の看護				
13	心臓・脈管系の手術を受ける人の看護				
頭部の手術を受ける人の看護					
14	開頭術を受ける人の看護(疾患の知識)				
15	開頭術を受ける人の看護				

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 セルフマネジメントの支援			単位	1単位：30時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 前期・後期			テキスト、参考書、使用教材 ○系看護専門分野 臨床看護総論、 ○系看護専門分野 成人看護学総論 (医学書院) ○系看護専門分野 循環器、血液・ 造血器、内分泌・代謝 (医学書院)	
担当講師	概論 :大村 康子 10時間 循環器障害患者の看護 :松本 勉 8時間 血液・造血器患者の看護 :前川聖一郎 6時間 糖代謝障害患者の看護 :山下 理恵 6時間		実務 経験	○ ○ ○ ○			
学習目標						成績評価の方法	
<ol style="list-style-type: none"> 慢性期にあり生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする人及び家族の特徴と健康問題を理解する。 慢性期にある人及び家族が再発予防や自立に向けたセルフケア行動がはかれるための援助を理解する。 セルフケアに必要な基礎看護技術を理解する。 退院支援に求められる看護師の役割を理解する。 						筆記試験、授業出席、授業態度、レポート 概論：40点 循環器：20点 血液・造血器：20点 糖代謝障害：20点	
回	授 業 計 画					備 考	
概論							
1	慢性期とは、慢性病患者の特徴、セルフマネジメントの構成要素						
2	セルフマネジメントの支援 退院支援と退院調整看護師の役割						
3	病みの軌跡					事例を基に レポート提出	
4	退院支援					事例展開	
5	退院支援					事例展開	
循環器障害患者の看護							
6	心不全患者の看護						
7	弁膜症・不整脈患者の看護						
8	ペースメーカーを装着した患者の看護、虚血性心疾患患者の看護①						
9	虚血性心疾患患者の看護②、高血圧患者看護						
血液・造血器障害患者の看護							
10	患者の特徴と援助、貧血患者の看護、輸血時の看護						
11	白血病患者の看護						
12	悪性リンパ腫患者の看護、造血幹細胞移植を受ける患者の看護						
糖代謝障害患者の看護							
13	糖尿病とは、基礎編						
14	食事療法・運動療法・薬物療法						
15	薬物療法・自己血糖測定実習、患者の看護・教育指導方法						

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 緩和ケア	単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生 (21 期生)	開講 時期	2 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 別巻 緩和ケア (医学書院) ○系看専門分野 基礎看護学〔4〕 ○看護診断ハンドブック (医学書院) ○疾患別看護過程の展開 (学研) ○系看専門分野 臨床看護総論	
担当 講師名	緩和ケア : 大村 康子 ホスピスケア : ペインコントロール:		16 時間 4 時間 6 時間 4 時間		
学習目標				成績評価の方法	
1. 緩和ケアの必要な人及び家族の特徴と健康問題を理解する。 2. あらゆる健康段階における緩和ケアの看護を理解する。 3. 意思決定支援について理解できる。 4. がん化学療法時の看護について理解する。 5. 疼痛のメカニズムとコントロールについて理解する。				筆記試験、看護過程展開レポート 緩和ケア：50 点 ホスピスケア：30 点 ペインコントロール：20 点	
回	授 業 計 画			備考	
緩和ケア					
1	緩和ケアとは 緩和ケアにおける意思決定支援とは				
2	全人的ケアの実践 1 ・身体的ケア				
3	全人的ケアの実践 2 ・心理的ケア ・スピリチュアルケア				
4	全人的ケアの実践 3 ・社会的ケア：住み慣れた地域での暮らしの支援				
5	臨死期のケア 家族のケア				
6	緩和ケアを必要とする人及び家族への看護 ・緩和ケアに用いられる看護実践 終末期 (肺がん) 患者の看護			冬季休暇中に看護 過程展開の課題あり	
7	終末期 (肺がん) 患者の看護				
8	がん化学療法時の看護				
ホスピスケア					
9	ホスピスでの緩和ケア (看護介入)				
10	苦痛のある患者・家族への看護実践 (No.1)				
11	苦痛のある患者・家族への看護実践 (No.2)				
12	危篤 (死亡直前期)・臨終・死亡時の看護と死後ケア				
13	スピリチュアルケアとコミュニケーション				
ペインコントロール					
14	痛みについて				
15	麻薬について				

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 生活行動障害と看護 (呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)			単位	1単位：15時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器 ○系看護専門分野 成人看護学〔10〕運動器 ○系看護専門分野 成人看護学〔5〕消化器 (医学書院)	
担当講師名	呼吸機能障害患者の看護：水頭 りえ 6時間 運動機能障害患者の看護：一瀬 葵 6時間 肝機能障害患者の看護：深松 亜紀子 3時間		実務経験	○ ○ ○			
学習目標					成績評価の方法 筆記試験 呼吸機能障害：40点 運動機能障害：40点 肝機能障害：20点		
①呼吸機能障害のある患者の看護を理解することができる。							
②運動機能障害のある患者に対して、特徴的な基礎看護技術や日常生活の援助、生活行動拡大に向けての援助を理解する。							
③肝機能障害のある患者の検査・治療に対する看護を理解することができる。							
回	授業計画					備考	
呼吸機能障害患者の看護							
1	症状に対する看護(せき、喀たん、血たん、呼吸困難 他) 酸素療法を受ける患者の看護 在宅酸素療法						
2	人工呼吸器を装着する患者の看護 吸入療法を受ける患者の看護 呼吸理学療法を受ける患者の看護						
3	検査を受ける患者の看護 胸腔ドレナージ、呼吸機能検査 疾患をもつ患者の看護(肺炎・気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患)						
運動機能障害患者の看護							
4	運動器疾患看護を学ぶにあたって 1)患者の特徴 2)看護の役割 3)姿勢、運動を支えるしくみ 4)良肢位アラインメント 5)合併症予防						
5	運動器疾患患者の看護 1)症状に対する看護 2)ギプス固定を受ける患者の看護 3)牽引療法を受ける患者の看護 4)手術療法を受ける患者の看護						
6	運動器疾患をもつ患者の看護 1)骨折 ①上肢の骨折 ②下肢の骨折 ③大腿骨頸部骨折 2)脊椎、脊髄疾患の看護 ①腰椎椎間板ヘルニア ②腰部脊柱管狭窄症 ③脊髄損傷						
肝機能障害患者の看護							
7	肝臓の働き 症状と病態生理 検査 肝炎の治療・看護						
8	肝硬変の症状と治療・看護 肝癌の治療と看護						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

分野	専門分野	授業 科目名	老年看護学 老年看護援助技術			単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生 (21 期生)	開講 時期	2 年次 前期・後期			テキスト、参考書、使用教材等	
担当 講師名	生活機能を整える看護・治療 創傷看護 レクリエーション	: 本多麻友美 : 瀬川 桂子 : 東 登志夫	20 時間 4 時間 6 時間	実務 経験	○ ○ ○	○系看護専門分野 老年看護学 (医学書院)	
学習目標						成績評価の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活機能を整える看護について理解する。 ・治療を受ける老年者の看護上の問題を理解する。 						筆記試験・授業参加態度等 生活機能・治療：80 点 創傷看護：20 点	
回	授 業 計 画						備考
生活機能を整える看護・治療を受ける高齢者の看護							
1	症候のアセスメントと看護 (脱水 他)						
2	身体疾患のある高齢者の看護① (脳卒中・心不全・糖尿病・COPD・肺炎・骨粗しょう症・骨折・パーキンソン病他)						グループワーク
3	身体疾患のある高齢者の看護② (脳卒中・心不全・糖尿病・COPD・肺炎・骨粗しょう症・骨折・パーキンソン病他)						グループワーク
4	清潔と看護ケア						
5	排泄と看護ケア						
6	排泄と看護ケア (おむつ体験共有学習)						グループワーク
7	生活リズムと看護ケア、転倒・廃用症候群						
8	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア① (検査・手術)						
9	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア② (せん妄・薬物)						
10	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア③ (入退院・リハビリ)						
創傷看護							
11	褥創の分類と要因・リスクアセスメント・皮膚の働きスキンケア・除圧について						
12	栄養・アセスメント・創傷被覆材・軟膏について						
レクリエーション							
13	レクリエーションと作業療法						
14	RO・回想法・音楽療法						
15	レクリエーション実技						演習

分野	専門分野	授業 科目名	老年看護学 老年期に特有な障害と看護		単位	2 単位：45 時間
対象 学生	2 年生 (21 期生)	開講 時期	2 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看専門分野 老年看護学 (医学書院) ○系看専門分野 成人看護学 7 脳・神経 (医学書院) ○別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)	
担当 講師名	認知機能障害の看護 認知機能障害・終末期の看護：増崎 辰徳 摂食・嚥下機能障害の看護：山口 美菜子 言語療法 脳神経障害患者の看護 看護過程 (脳梗塞事例)：渡辺 美樹子	6 時間 6 時間 4 時間 4 時間 25 時間	実務 経験	○ ○ ○		
学習目標					成績評価の方法 筆記試験	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 老年者に多くみられる感覚器障害、摂食・嚥下機能障害、認知機能障害について、その看護を理解する。 ・ 終末期にある高齢者とその家族に対する看護を理解する。 ・ 脳梗塞による片麻痺のある高齢者の事例に対し、演習を通してその看護の方法を理解する。 					認知機能障害：15 点 認知機能障害・終末期：15 点 摂食・嚥下機能障害：15 点 言語療法：15 点 脳神経障害：10 点 看護過程：30 点 (演習への 取り組み・レポート)	
回	授 業 計 画				備考	
認知機能障害／認知機能障害・終末期の看護						
1	認知症の看護 (基本的対応、日常生活援助、認知症高齢者やその家族を支える仕組み、地域との連携 など)				外部講師	
2/3	〃				外部講師	
4	ユマニチュード 他				外部講師	
5/6	終末期にある高齢者とその家族に対する看護				外部講師	
摂食・嚥下機能障害の看護						
7	加齢による摂食・嚥下障害の病態と要因、アセスメント				外部講師	
8/9	摂食・嚥下障害を有する高齢者の看護				外部講師	
言語療法						
10	言語聴覚士とは？ 失語症・構音障害・言語障害の種類について				外部講師	
11	よりよい会話パートナーとなるための演習				演習	
脳神経障害患者の看護						
12	1) 患者の特徴 2) 疾患の経過と看護 3) 症状と看護				外部講師	
13	4) 脳梗塞により片麻痺のある患者の看護 5) パーキンソン病患者の看護				外部講師	
14	事例「脳梗塞の回復期の看護」について：事例紹介					
15	関連図作成・問題点の抽出：グループワーク				グループワーク	
16/17	看護計画の立案・看護の実際				グループワーク	
18/19	看護の実際 (ロールプレイの練習)				演習	
20/21	看護の実際 (発表)				演習	
22/23	関節可動域訓練 まとめ				演習含め 3 h	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目名	小児看護学 小児看護学援助技術		単位	1単位：15時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看専門分野 小児看護学概論・臨床総論 (医学書院)	
担当講師名	徳永 智子		実務経験	○	○系看専門分野 小児各論(医学書院) ○写真でわかる小児看護技術 (インターメディカ)	
学習目標 1. 小児看護を行ううえで必要な看護技術を理解する。					成績評価の方法 筆記試験	
回	授 業 計 画					備 考
1	小児とのコミュニケーション技術					
2	日常生活の援助技術					
3	フィジカルアセスメント					
4	バイタルサインの測定					
5	検査・診察・与薬・吸入時の援助					
6	輸液管理・身体計測・シーネ固定の演習					演習
7	プレパレーション企画					
8	プレパレーション 発表 リフレクション					演習
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

分野	専門分野	授業科目名	小児看護学 小児期における健康障害	単位	1 単位：30 時間
対象学生	2 年生 (21 期生)	開講時期	2 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護専門分野 小児 各論 (医学書院)	
担当講師名		実務経験			
授業のねらい・学習目標 小児に特有な疾患などの病態生理、症状、検査、治療を理解し、 身体アセスメントの基礎的知識を習得する。				成績評価の方法 筆記試験 100 点	
回	授 業 計 画			備 考	
1	呼吸器				
2	消化器				
3	免疫・アレルギー性疾患 (気管支喘息 他)				
4	循環器 (先天性心疾患・川崎病 他)				
5	腎臓・泌尿器・生殖器				
6	内分泌・代謝				
7	感染症				
8	感染症				
9	血液・造血器・悪性新生物				
10	神経				
11	運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉				
12	先天異常				
13	新生児の疾患 (SIDS含む)				
14	小児救急・事故と外傷				
15	総復習				

分野	専門分野	授業科目名	小児看護学 小児期における看護		単位	1 単位：30 時間
対象学生	2 年生 (21 期生)	開講時期	2 年次 前期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看専門分野 小児概論・臨床総論 (医学書院) ○系看専門分野 小児 各論 (医学書院)	
担当講師名	田原 えりか 佐藤 有香 山本 和樹	20 時間 10 時間	実務経験	○ ○ ○		
学習目標					成績評価の方法	
1. 様々な状況にある小児と家族の特徴と健康問題を理解する。 2. 様々な状況にある小児と家族への援助を理解する。 3. 健康問題があり地域で暮らす小児と家族への支援を理解する。					筆記試験、出席状況 : 60 点 : 40 点	
回	授 業 計 画				備考	
1	健康問題／障害および入院が子どもと家族に与える影響				グループワーク	
2	急性期にある子どもと家族の看護 1. 急性期の子どもと家族の看護 2. 急性期に特徴的な症状と看護①					
3	急性期にある子どもと家族の看護 2. 急性期に特徴的な症状と看護②					
4	慢性期にある子どもと家族の看護 (身体的・心理的・社会的特徴を考える)					
5	終末期にある子どもと家族の看護 1. 終末期の特徴 2. 生命・死についての子どものとらえ方 3. 子どもと家族の看護 4. 子どもをなくした家族の看護					
6	先天的な問題をもつ子どもと家族の看護 1. 先天異常の種類と特徴 2. 先天異常をもつ子どもと家族の看護					
7	障害のある子どもと家族の看護 1. 障害の種類と定義 2. 障害の受容 3. 子どもと家族の日常生活への支援と社会的支援					
8	在宅療養を行う子どもと家族の看護 1. 在宅療養を行う子どもと家族の特徴と看護 2. 子どもの在宅療法 3. 子どもの地域連携					
9	虐待が疑われる子どもと家族の看護 1. 児童虐待の分類 2. 児童虐待の予防と早期発見 3. 医療機関における看護師の役割 4. 子どもと家族の援助					
10	事例を用いた看護過程①				事例：川崎病 課題あり	
11	入院中の子どもと家族の看護 (病院環境や退院後を見すえた看護など) 活動制限 (治療や骨折など) を要する子どもと家族の看護					
12	周手術期における子どもと家族の看護					
13	痛みのある子どもと家族の看護					
14	感染症に罹患している子どもと家族の看護 化学療法を受ける子どもと家族の看護					
15	ハイリスク新生児と家族の看護					

分野	専門分野	授業科目名	母性看護学 周産期の経過／新生児の看護		単位	1単位：30時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 前・後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門Ⅱ母性看護学② 母性看護学各論(医学書院) ○カラー写真で学ぶ周産期の看護技術(医歯薬出版) ○カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術(医歯薬出版)	
担当講師名	周産期の経過： 新生児の看護：馬場 直美	22時間 8時間	実務 経験	○		
学習目標					評価の方法	
1. 正常な妊娠・分娩・産褥の経過及び新生児の生理を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥の異常経過について理解する。					筆記試験 妊娠・分娩・産褥の経過：80点 新生児の看護：20点	
回	授 業 計 画					備 考
妊娠・分娩・産褥の経過						
1	正常妊娠の成立機序、妊娠悪阻、流産、異所性妊娠					
2	不妊症(検査・治療など)、不育症					
3	妊娠週数の表現法、妊娠による母体の変化、妊娠経過の判断					
4	正常分娩の経過、分娩の3要素、分娩機転、					
5	正常分娩の管理、骨盤計測、分娩の母児に及ぼす影響、産痛					
6	異常妊娠①(常位胎盤早期剥離、前置胎盤、羊水異常、子宮内胎児発育遅延など)					
7	異常妊娠②(多胎、微弱陣痛、CPD、産科ショック、DICなど)					
8	周産期の感染症					
9	合併症妊娠(妊娠高血圧症候群、糖尿病、血液疾患など)					
10	胎児の評価、産褥期					
11	新生児の特徴・異常					
12	まとめ					
新生児の看護						
13	新生児のアセスメントと看護					
14	新生児の看護(沐浴・バイタルサイン測定・体重測定・オムツ交換)					演習
15						

分野	専門分野	授業 科目名	母性看護学 妊婦・産婦・褥婦の看護		単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生 (21 期生)	開講 時期	2 年次 前期・後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 (医学書院) ○カラー写真で学ぶ周産期の看護技術	
担当 講師名	吉本 直子 :10 時間 宮崎 あやめ } 20 時間 松竹 明子 }	実務 経験	○ ○ ○			
学習目標					評価の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠による身体の変化を理解し、健康に妊娠期を送るために必要な看護を理解できる。 ・産婦の心理的变化を理解し、分娩時の看護を理解できる。 ・産褥期の生理的变化を理解し、新生児を含め母親役割獲得過程やセルフケア能力を持っている褥婦への看護や育児支援を理解できる。 ・ウェルネスの視点を持って妊婦・産婦・褥婦のアセスメントができる。 					筆記試験 提出物	
回	授 業 計 画				備 考	
1	妊娠・分娩・産褥の基礎				グループワーク	
2	妊娠期の身体的特徴					
3	妊娠期に行われる検査・処置					
4	妊娠期の看護					
5	分娩の経過					
6	分娩期のアセスメントと看護					
7	産褥期の身体的変化					
8	母乳育児支援					
9	産褥期の看護					
10	周産期の心理的变化					
11	地域における育児支援の実際①				グループワーク	
12	地域における育児支援の実際②				発表	
13	周産期のアセスメント①					
14	周産期のアセスメント②					
15	周産期のアセスメント③					

分野	専門分野	授業科目名	精神看護学 精神障害と治療法			単位	1単位：30時間
対象学生	2年生(21期生)	開講時期	2年次 後期			テキスト、参考書、使用教材等	
担当講師名	精神疾患の治療 精神疾患とその看護 作業療法 自助グループ活動	:小野 慎治 : : :	6時間 14時間 4時間 6時間	実務経験	○	○系看専門分野 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎(医学書院)	
学習目標						成績評価の方法	
1. 精神の特有な疾患などの病態生理、検査、治療を理解し、身体のアセスメントとその基礎的知識を習得する。						・筆記試験	
2. 精神看護に特有な治療法並びに援助技術を理解する。						治療：20点 疾患とその看護：40点 作業療法：20点 自助グループ活動：20点	
回	授業計画					備考	
精神疾患の治療							
1	薬物療法 1						
2	薬物療法 2						
3	精神療法						
精神疾患とその看護							
4	統合失調症とその看護 1						
5	統合失調症とその看護 2						
6	気分(感情)障害とその看護						
7	神経症性障害、ストレス関連障害とその看護						
8	認知症とその看護						
9	パーソナリティ障害・摂食障害とその看護						
10	てんかん・発達障害とその看護						
作業療法							
11	精神科作業療法の意味、目的、特徴						
12	回復を支えるさまざまなプログラム、社会生活技能訓練(SST)						
自助グループ活動							
13	集団のなかの自己、全体としてのグループ						
14	セルフヘルプ(自助)グループとは						
15	アルコール依存症とセルフヘルプ(自助)グループ活動の実際						

分野	専門分野	授業科目名	精神看護学 精神障害の看護援助			単位	2 単位：45 時間
対象学生	2 年生 (21 期生)	開講時期	2 年次 後期			テキスト、参考書、使用教材等	
担当講師名	精神看護援助 状態に応じた看護	: 川根 明日美 : 野口 瑞希 : 柳村 陽介	19 時間 8 時間 8 時間		○ ○ ○	○系看専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 [医学書院] ○系看専門分野 精神看護学 [2] 精神保健看護の展開 (医学書院)	
	精神科デイケア における看護	:	4 時間	実務 経験			
	地域定着支援	:	2 時間 2 時間				
	精神科訪問看護	:	2 時間				
学習目標						成績評価の方法	
1. 精神看護に特有な援助技術を理解する。 2. 精神科に特有な状態に応じた看護を理解する。 3. 地域定着に必要な看護を理解する。 4. 家族支援に必要な看護を理解する。						授業態度、演習貢献度、筆記試験 精神看護援助 : 40 点 状態に応じた看護 : 40 点 精神科デイケアにおける看護 : 10 点 地域定着支援 : 10 点 精神科訪問看護	
回	授 業 計 画						備考・ 分担講師
精神看護援助技術 学内教員							
1	治療的人間関係、感情体験						
2	精神看護におけるケアの原則と方法						
3	プロセスレコード						
4	プロセスレコード検討						演習
5	精神看護におけるアセスメントの視点①						
6	精神科看護におけるアセスメントの視点②						GW
7	精神科看護における看護の展開①						
8	精神科看護における看護の展開②						GW
9	主な検査時の看護 治療過程の看護 (薬物療法、精神療法、リハビリテーション)						
10	家族への支援 (特徴、心理教育的アプローチ、他)						*45 分
状態に応じた看護：外部講師							
11	回復の意味と意思決定支援 精神科における治療的環境と治療共同体、精神科病棟の実際						
12	精神看護における観察 (精神症状、表情、ふるまい、しぐさ) コミュニケーション技術の実際						
13	幻覚・妄想のある人の看護						
14	不安・躁状態・抑うつ・自殺のおそれ自傷のおそれのある人の看護						
15	昏迷状態、不眠、拒否、興奮、強迫行為 衝動状態にある人の看護						

16	せん妄、もうろう状態、アメンチアのある人の看護 摂食障害のある人の看護	
17	認知症のある人の看護（精神科入院における特徴、症状別対応、合併症予防）	
18	依存状態にある人の看護 人格障害の看護	
精神科デイケアにおける看護：外部講師		
19	精神科デイケアと多職種連携	
20	デイケア活動と看護の実際	
地域定着支援：外部講師		
21	退院支援と地域移行	
22	地域定着支援の実際	
精神科訪問看護：外部講師		
23	精神科訪問看護の実際	

分野	専門分野	授業科目名	看護の統合と実践 災害看護	単位	1単位：15時間
対象学生	2年生（21期生）	開講時期	2年次 後期	テキスト、参考書、使用教材	
担当講師名		実務経験		医学書院 ○系看護専門分野 看護の統合と実践 災害看護学（医学書院）	
学習目標				成績評価の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・災害の種類と災害が人々に与える影響について理解できる。 ・災害医療の特徴と災害サイクルに応じた看護が理解できる。 ・災害に対する準備性を高めることができる。 				1. 学習態度 2. 筆記試験	
回	授 業 計 画			備 考	
1	災害看護学を学ぶ意義 長崎県内の災害				
2	国内外の大きな災害 災害看護の定義と役割 災害の種類				
3	災害と健康障害 災害と情報				
4	災害医療と災害看護の特徴				
5	災害サイクルにそった医療・看護活動① ・急性期・亜急性期：病院、救護所、避難所				
6	災害サイクルにそった医療・看護活動② ・慢性期・復興期・静穏期				
7	災害とこころのケア 災害看護と法律 (0.5コマ)				
8	災害対応にかかわる職種間・組織間連携 遺体のケアとグリーフケア こころのケアの実際				

3 年次履修科目

専門基礎分野

統合分野

教 育 課 程

(第1看護学科)

区分・内容		授 業 科 目	単位 (時間数)	区分・内容	授 業 科 目	単位 (時間数)	
基礎分野	科学的 基盤的 盤思	論理学	1 (30)	専 門 分 野	成人看護学	成人看護学概論	1 (30)
		情報科学	2 (45)			生活行動障害と看護	1 (30)
		教育学	1 (30)			手術療法と看護	1 (30)
	人間 と生活・ 社会の 理解	文学	1 (30)			セルフマネジメントの支援	1 (30)
		心理学	1 (30)			緩和ケアと終末期看護	1 (30)
		人間関係論	1 (30)			成人看護学演習	1 (30)
		社会学	1 (30)		老年看護学	老年看護学概論	1 (30)
	英語 I	2 (60)	老年看護学援助技術			1 (30)	
	英語 II (日常会話)	1 (15)	老年期に特有な障害と看護			1 (15)	
			健康とレクリエーション体育		2 (60)	リハビリテーション看護	1 (30)
		合 計	13 (360)	小 児 看 護 学	小児看護学概論	1 (30)	
専 門 基 礎 分 野	疾 人 体 の 成 り 立 ち と 機 能 回 復 の 促 進	人体の構造としくみ	2 (45)		小児看護学援助技術	1 (15)	
		人体の生理機能	2 (45)		小児期における健康障害	1 (30)	
		代謝栄養学	2 (45)		小児期の健康問題と看護	1 (30)	
		疾病の成り立ち (病理学)	1 (30)		母 性 看 護 学	母性看護学概論	1 (30)
		疾病論 I (呼吸/循環)	1 (30)			周産期の経過/新生児の看護	1 (30)
		疾病論 II (消化器/内分泌・代謝)	1 (30)			妊婦・産婦・褥婦の看護	1 (30)
		疾病論 III (血液造血/免疫/腎)	1 (30)			リプロダクティブヘルス/ライツ	1 (15)
		疾病論 IV (脳神経/運動器)	1 (30)		精 神 看 護 学	精神看護学概論	1 (30)
		疾病論 V (手術療法/泌尿器/女性生殖器)	1 (30)			患者心理と対象理解	1 (15)
		疾病論 VI (眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔)	1 (30)	精神障害と治療法		1 (30)	
疾病論 VII (微生物学・感染症)		1 (30)	精神障害の看護援助	1 (30)			
治療総論 (薬理学)		1 (30)	小 計		22 (600)		
度社健 会康支 保障援 制と		医療倫理	1 (30)	臨 地 実 習	成人看護学実習 I	成人看護学実習 I	2 (90)
	社会福祉	2 (30)	成人看護学実習 II			2 (90)	
	地域保健論	1 (15)	成人看護学実習 III			2 (90)	
	関係法規	2 (30)	老年看護学実習 I			2 (90)	
合 計		21 (510)	老年看護学実習 II			2 (90)	
専 門 分 野 I	基 礎 看 護 学	看護学概論	1 (30)			小児看護学実習	2 (90)
		フィジカルアセスメント	1 (30)		母性看護学実習	2 (90)	
		日常生活援助技術 I (生活環境/活動と休息)	1 (30)		精神看護学実習	2 (90)	
		日常生活援助技術 II (栄養と食生活/排泄)	1 (30)		小 計		16 (720)
		日常生活援助技術 III (清潔/衣生活)	1 (30)		合 計		38 (1,320)
		診療に関する援助技術 I (感染予防/周手術期/酸素療法)	1 (30)	在 宅 看 護 論	在宅看護概論	1 (15)	
		診療に関する援助技術 II (薬物療法と看護/食事療法)	1 (30)		在宅看護基本援助論	1 (30)	
		診療に関する援助技術 III (検査と看護/放射線療法と看護)	1 (30)		在宅看護論演習	1 (30)	
		臨床看護総論 I (看護過程と看護記録)	1 (30)		在宅における医療処置	1 (15)	
		臨床看護総論 II (症状別看護)	1 (30)		小 計		4 (90)
小 計		10 (300)	看 護 の 統 合 と 実 践		救急医療と看護	1 (15)	
臨 地 実 習	基礎看護学実習 I	1 (45)		災害看護	1 (15)		
	基礎看護学実習 II	2 (90)		看護マネジメントと国際看護	1 (15)		
	小 計			3 (135)	医療安全 (演習)	1 (30)	
合 計		13 (435)		看護研究 (演習)	1 (30)		
				小 計		5 (105)	
臨 地 実 習			臨 地 実 習	在宅看護論実習	2 (90)		
				看護統合実習	2 (90)		
				小 計		4 (180)	
			合 計		13 (375)		
			総 計		98 (3,000)		

教育課程一覧（進度表）

20期生

教育内容		授業科目	単位	時間数	1年次		2年次		3年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30						
		情報科学	2	45						
		教育学	1	30						
	人間と生活、社会の理解	文学	1	30						
		心理学	1	30						
		人間関係論	1	30						
		社会学	1	30						
		英語Ⅰ	2	60						
		英語Ⅱ（日常会話）	1	15						
		健康とレクリエーション体育	2	60						
	合計	13	360	10(300)		3(75)				
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	人体の構造としくみ	2	45						
		人体の生理機能	2	45						
		代謝栄養学	2	45						
		疾病の成り立ち（病理学）	1	30						
		疾病論Ⅰ 呼吸・循環	1	30						
		疾病論Ⅱ 消化器・内分泌・代謝	1	30						
		疾病論Ⅲ 血液・免疫・腎	1	30						
		疾病論Ⅳ 脳神経・運動器	1	30						
		疾病論Ⅴ 手術療法・泌尿器・女性生殖器	1	30						
		疾病論Ⅵ 眼・耳鼻咽喉・皮膚・口腔	1	30						
	疾病論Ⅶ 微生物学・感染症	1	30							
	治療総論 薬理学	1	30							
	小計	15	405	14(375)		1(30)				
	健康支援と社会保障制度	医療倫理	1	30						
		社会福祉	2	30						
		地域保健論	1	15						
		関係法規	2	30						
		小計	6	105			3(45)			
		合計	21	510	14(375)		4(75)		3(45)	
	専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30					
フィジカルアセスメント			1	30						
日常生活援助技術Ⅰ（生活環境/活動と休息）			1	30						
日常生活援助技術Ⅱ（栄養と食生活/排泄）			1	30						
日常生活援助技術Ⅲ（清潔/衣生活）			1	30						
診療に関する援助技術Ⅰ（感染予防/周手術期/酸素療法）			1	30						
診療に関する援助技術Ⅱ（薬物療法と看護/食事療法）			1	30						
診療に関する援助技術Ⅲ（検査と看護/放射線療法と看護）			1	30						
臨床看護総論Ⅰ（看護過程と看護記録）			1	30						
臨床看護総論Ⅱ（症状別ケア）			1	30						
小計		10	300	7(210)		3(90)				
臨地実習		基礎看護学実習Ⅰ	1	45						
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90						
		小計	3	135	1(45)		2(90)			
		合計	13	435	8(255)		5(180)			
	専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30					
生活行動障害と看護			1	30						
手術療法と看護			1	30						
セルフマネジメントの支援			1	30						
緩和ケアと終末期看護			1	30						
老年看護学		成人看護学演習	1	30						
		老年看護学概論	1	30						
		老年看護学援助技術	1	30						
		老年期に特有な障害と看護	1	15						
		リハビリテーション看護	1	30						
小児看護学		小児看護学概論	1	30						
		小児看護学援助技術	1	15						
		小児期における健康障害	1	30						
		小児期の健康問題と看護	1	30						
		母性看護学概論	1	30						
母性看護学		周産期の経過/新生児の看護	1	30						
		妊婦・産婦・褥婦の看護	1	30						
		リプロダクティブヘルス/ライツ	1	15						
		精神看護学概論	1	30						
		患者心理と対象理解	1	15						
精神看護学	精神障害と治療法	1	30							
	精神障害の看護援助	1	30							
	小計	22	600	6(165)		16(435)				
臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90							
	成人看護学実習Ⅱ	2	90							
	成人看護学実習Ⅲ	2	90							
	老年看護学実習Ⅰ	2	90							
	老年看護学実習Ⅱ	2	90							
	小児看護学実習	2	90							
	母性看護学実習	2	90							
	精神看護学実習	2	90							
小計	16	720			4(180)		12(540)			
合計	38	1320	6(165)		20(615)		12(540)			
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	15						
		在宅看護基本援助論	1	30						
		在宅看護論演習	1	30						
		在宅看護における医療処置	1	15						
		小計	4	90			4(90)			
	看護の統合と実践	救急医療と看護	1	15						
		災害看護	1	15						
		看護マネジメントと国際看護	1	15						
		医療安全（演習）	1	30						
		看護研究（演習）	1	30						
小計	5	105			2(30)		3(75)			
臨地実習	在宅看護論実習	2	90							
	看護統合実習	2	90							
小計	4	180					4(180)			
合計	13	375			6(120)		7(255)			
	講義合計	75	1995	37(1050)		32(795)		6(120)		
	実習合計	23	1035	1(45)		6(270)		16(720)		
	総計	98	3000	38(1095)		38(1065)		22(840)		

分野	専門基礎分野	授業 科目名	地域保健論		単位	1 単位：15 時間
対象 学生	3 年生 (20 期生)	開講 時期	3 年次 前期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護専門基礎分野 健康支援と社 会保障制度〔2〕 公衆衛生 (医学 書院)	
担当 講師名	木下 日出美 1 時間 谷 貴子 4 時間 2 時間 2 時間 2 時間 2 時間 2 時間	実 務 経 験	○ ○			
学習目標 地域や個人を対象とした健康の保持増進をはかるために、疾病構造、生活習慣などの視点から地域保健活動について 理解できる。					成績評価の方法 筆記試験 公衆衛生の基礎 : 40 点 公衆衛生の実践 : 60 点	
回	授 業 計 画					備考 (講師名)
1	看護行政の動向					木下 日出美
2	公衆衛生の基礎 理念：公衆衛生の目的と活動の特徴 疫学と健康指標、新健康教育 政策立案、計画と実践評価のプロセス					谷 貴子
3	地域保健の特性 地域保健を取り巻く法律					谷 貴子
4	公衆衛生の実践 精神保健					
5	公衆衛生の実践 成人保健・難病 高齢者保健					
6	公衆衛生の実践 母子保健					
7	公衆衛生の実践 感染症と危機管理					
8	産業保健					

分野	専門基礎分野	授業科目名	関係法規			単位	2 単位：30 時間
対象学生	3 年生 (20 期生)	開講時期	3 年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等	
担当講師名	看護職と法律：糟谷 操子 10 時間 関係法規：横尾 美智代 20 時間		実務経験	○	—	○ナースがグラフィック健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度 (MC メディア出版) ○看護職の基本的責務 (日本看護協会)	
授業のねらい・学習目標						成績評価の方法	
①看護職と法律 ・拠り所である保健師助産師看護師法について知る。 ・看護実践における法的責務を理解する。						筆記試験 看護職と法律：30 点	
②関係法規 ・看護専門職に就くために必要な法的知識を理解、習得する。						関係法規：70 点	
回	授 業 計 画						備 考
看護職と法律							
1	保健師助産師看護師法：看護をめぐる法制度、注目すべき改正の経緯						
2	保健師助産師看護師法：構成、目的、定義、免許						
3	保健師助産師看護師法：試験、業務、罰則						
4	看護師等の人材確保の促進に関する法律						
5	看護職として、いきいきと生涯働き続けるために：労働政策に関する法律など						
関係法規							
6	法の概念：日本国憲法、衛生法とその分類、厚生行政のしくみ						
7	医療法：目的、理念、病院・診療所・助産所の規則、人員、管理など						
8	医療法：人員配置基準、記録の保存、医療提供体制、医療圏、第 5 次改正など						
9	医療法のまとめ；他の先進国との比較、医師法：医師の義務、業務などを中心に						
10	保健衛生に関する法律：地域、母子、学校での保健衛生に関連する法律を中心に						
11	保健衛生に関する法律：予防接種、感染症、検疫、食品衛生に関する法律を中心に						
12	薬務に関する法律：薬事法、薬剤師法、毒物・劇物、毒薬・向精神薬などに関する法律を中心に						
13	社会保険に関する法律：わが国の社会保障の理解、健康保険、介護保険、年金保険などの法の仕組みと関係性を中心に						
14	福祉に関する法律：児童、老人、生活保護、障害者に関連する法律を中心に						
15	産業保健と環境に関する法律：労働に関する法律、環境に関する法律を中心に						

分野	統合分野	授業科目名	看護の統合と実践 看護マネジメントと国際看護			単位	1単位：15時間
対象学生	3年生（20期生）	開講時期	3年次 前期			テキスト、参考書、使用教材	
担当講師名	看護マネジメント：木下 日出美 国際看護：横尾 美智代	13時間 2時間	実務経験	○ —	○ 系看護学講座 統合分野 看護管理（医学書院）		
学習目標						成績評価の方法	
1. チーム医療における看護の役割を理解できる。 2. 病院組織における看護組織と管理について理解できる。 3. 質の高い看護を提供する為の現任教育について理解できる。 4. 諸外国の健康問題と看護活動について理解する。						筆記試験 100点	
回	授 業 計 画						備 考
1	看護とマネジメント 看護管理とマネジメント 看護におけるマネジメントの考え方の変遷 看護職のキャリアマネジメント						
2	看護ケアのマネジメント（1） 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重 安全管理						
3	看護ケアのマネジメント（2） チーム医療 看護業務の実践（日常業務のマネジメント）						
4	看護サービスのマネジメント（1） 組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり						
5	看護サービスのマネジメント（2） 人材・環境・物品・情報のマネジメント 組織におけるリスクマネジメント サービスの評価						
6	看護を取り巻く諸制度 医療制度 看護職の法的責任 マネジメントに必要な知識と技術 組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント 組織の調整						
7	復習とまとめ						1時間 (45分)
8	国際看護（概論） 国際看護（経験者からの講義）						横尾先生

分野	統合分野	授業科目名	看護の統合と実践 医療安全（演習）	単位	1 単位：30 時間
対象学生	3 年生(20 期生)	開講時期	3 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材	
担当講師名	糟谷 操子	実務経験	○	○系看 統合分野 看護の統合と実践（2）医療安全 （医学書院）	
学習目標 1. 医療安全に関する基礎的知識が理解できる。 2. 看護の対象者に対し、起こり得るリスクを予見し、回避できる行動を考えることができる。 3. 医療職の一員としての基本的な倫理観を養うことができる。 4. 看護の対象者の安全を守る行動に繋げることができる。				成績評価の方法 演習に対する熱意（姿勢・態度） （20 点） 筆記試験（80 点）	
回	授 業 計 画			備 考	
1	医療安全を学ぶことの大切さ 医療安全に関する基礎知識				
2	医療倫理 看護職が遭遇する倫理的ジレンマ				
3	医療事故 医療事故における看護師の法的責任 看護師に必要とされる注意義務				
4	事故発生のメカニズム・事故分析				
5	療養上の世話の事故と診療の補助の事故				
6	KYT①（日常生活援助）			演習	
7	医療事故事例の作成①			演習	
8	事例展開① ロールプレイング			演習（実習室）	
9					
10	医療事故事例の作成②			演習	
11	事例展開② ロールプレイング			演習（実習室）	
12					
13	事例展開の振り返り			演習	
14	KYT②（診療の補助）			演習	
15	看護に必要な計算問題 医療安全とコミュニケーション（Team STEPPS）			一部演習	

分野	統合分野	授業科目名	看護の統合と実践 看護研究（演習）		単位	1単位：30時間
対象学生	3年生（20期生）	開講時期	3年次 前期・後期		テキスト、参考書、使用教材 ○系看 別冊 看護研究（医学書院）	
担当講師名	黒田 裕美 松浦 江美 田中 準一	12時間 12時間 6時間	実務 経験	○ ○ ○		
学習目標：看護研究とは何かを知り、研究力を育むために必要な基礎的方法について理解する。 学習方法：講義・演習（学生の健康・生活・学習面等の身近な問題をテーマとし、5～6人/Gで研究計画書～発表の一連の過程を学習する。） 行動目標：①看護研究とは何かについて知る。②量的研究・質的研究の進め方・研究倫理の概略を知る。③研究計画書・質問紙作成について体験する。④調査の実施～発表までの過程を体験する。					成績評価の方法 グループ：研究計画書・質問紙（40%）、発表資料・発表方法（40%）、個人：各講義でのアクションシート（授業の到達目標や学び）（15%）、出席状況（5%）から総合的に評価する。	
回	授 業 計 画					備 考
1	・看護における研究とは：研究の目的・意義、授業ガイダンス ・研究疑問から研究への発展について—リサーチクエスチョンと文献検討					講義（黒田先生）
2	・研究の進め方：量的研究・質的研究					講義（松浦先生）
3	・研究計画書の書き方 ・研究における倫理について ・研究テーマの検討（グループワーク）					講義（黒田先生）
4	・研究テーマの検討（グループワーク、発表） ・質問紙調査に焦点をあてた研究計画書及び自記式質問紙調査票の作成①					講義（黒田先生）
5	・質問紙調査に焦点をあてた研究計画書及び自記式質問紙調査票の作成②					講義・演習（黒田先生）
6	・質問紙調査に焦点をあてた研究計画書の作成及び自記式質問紙の作成③					講義・演習（黒田先生）
7	・研究計画書の発表 ・調査の準備（質問紙の印刷など） ・調査の実施					講義・演習（黒田先生）
8	・入力フォーマットの作成とデータ入力① ：1Gにつき5分以内で調査を実施し、時間内にデータを入力する。					講義・演習（田中先生）
9	・入力フォーマットの作成とデータ入力②					講義・演習（田中先生）
10	・結果の分析および結果の示し方：入力したデータを図表に示す					講義・演習（田中先生）
11	・考察：結果の解釈、文献の引用について（グループワーク）					講義・演習（松浦先生）
12	・発表方法：パワーポイントを用いた発表資料・抄録作成の方法について					講義（松浦先生）
13	・パワーポイント資料・抄録作成①（グループワーク）					講義・演習（松浦先生）
14	パワーポイント資料・抄録作成②（グループワーク）					講義・演習（松浦先生）
15	発表・まとめ					演習（松浦先生）

講師一覽表

2023年度 講師一覧表

第22期生

教育内容		授業科目	単位	総時間	時間	講師名	備考				
基礎分野	科学的 思考の 基盤	論 理 学	1	30	30	篠原 駿一郎	長崎大学(名誉教授)				
		情 報 科 学 I (情報通信技術活用の基礎)	2	30	30	日 當 明 男 佐 藤 雅 紀	長崎総合科学大学 長崎総合科学大学				
	人間と生活・社会 の理解	心 理 学	1	30	30	朝 長 昌 三	長崎大学(名誉教授)				
		人 間 関 係 論	1	30	30	上野和美(A) 長浦由紀(B)	長崎大学大学院 長崎大学病院				
		社 会 学	1	15	15	南 誠	長崎大学				
		英 語 I	2	45	45	大坪有実					
		健康とレクリエーション体育	2	45	45	飛奈美耶子					
		看護コミュニケーション論	1	15	15	吉本直子					
	専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	人体の構造としくみ	2	45	45	戸田一雄(A) 介田圭(B)	長崎大学大学院(名誉教授) 長崎大学大学院			
			人体の生理機能	2	45	45	戸田一雄(A) 介田圭(B)	長崎大学大学院(名誉教授) 長崎大学大学院			
代 謝 栄 養 学			2	45	20 25	宮西隆幸 松永知恵	長崎大学(客員教授) 活水女子大学				
疾 病 論 I			呼 吸 循 環 系	1	30	14 8 8	中尾匠 黒部昌也 渡邊潤平	長崎大学病院 長崎大学病院 長崎大学病院			
				疾 病 論 II	消 化 器 内 分 泌 ・ 代 謝	1	30	18 12			
				疾 病 論 III	血 液 造 血 免 疫 系	1	30	12 10 8	松下哲朗 新里クリニック		
疾 病 論 IV			脳 神 経 運 動 器	1	30	16 14					
				疾 病 論 V	手 術 療 法 泌 尿 器 女 性 生 殖 器	1	30	2 2 2 6 8 4 4 10	(A) (B) (B)		
疾 病 論 VII			微 生 物 学 ・ 感 染 症	1	30	18 12	有吉紅也	長崎大学病院			
治 療 総 論			薬 理 学	1	30	14 8 4 4	有賀純	長崎大学大学院			
専門分野			基礎看護学	看 護 学 概 論	1	30	30	糟谷操子			
				フィジカルアセスメント	1	30	30	渡辺美樹子			
				日常生活援助技術 I	生 活 環 境 活 動 と 休 息	1	30	14 16	野中由香 徳永智子		
						日常生活援助技術 II	栄 養 と 食 生 活 排 泄	1	30	12 18	田原えりか 平よどみ
				日常生活援助技術 III	清 潔 と 衣 生 活	1	30	30	深松亜紀子		
				診療に関する援助技術 I	感 染 予 防 周 手 術 期 看 護 呼 吸 ケ ア	1	30	8 4 12 6	野中由香 森英恵 野中由香 西村松美	長崎みなとメディカルセンター	
						看護過程と看護記録	1	30	30	糟谷操子	
						地域・在宅看護論	1	30	30	靄岡イツ子	
				地域・在宅看護論	地域における暮らしの理解	1	30	26 2	樋口香織		
						成人看護学	成人看護学概論	1	30	30	平よどみ
	老年看護学	老年看護学概論			1	30	30	本多麻友美			
	小児看護学	小児看護学概論			1	30	30	田原えりか			
	母性看護学	母性看護学概論			1	30	30	吉本直子			
精神看護学	精神看護学概論	1	30		30	川根明日美					

2023年度 講師一覧表

第21期生

教育内容	授 業 科 目	単 位	総時間	時間	講 師 名	備 考		
基礎分野	科学的思考の基礎	情報科学Ⅱ	1	15	15	田中準一	長崎大学大学院	
		情報通信技術活用法	1	30	30	平田勝政	鎮西学院大学	
	人間と生活、社会の理解	文 学	1	15	15	中島貴奈	長崎大学	
専門基礎分野	人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進	英語Ⅱ	1	15	15	大坪有美		
		疾病の成り立ち	1	30	30	松田勝也	長崎大学大学院	
		疾病論Ⅵ	眼	1	30	8	宮城清弦	長崎大学病院
			耳鼻咽喉			8	宮本育江	共立耳鼻咽喉科
	皮膚		8					
		口		6	久松徳子	長崎大学病院		
	健康支援と社会保障制度	看護の臨床判断	1	15	15	本田和也	国立病院機構長崎医療センター	
医療倫理		1	30	30	篠原駿一郎	長崎大学(名誉教授)		
社会福祉		2	30	30	飛永高秀	長崎純心大学		
専門分野	基礎看護学	診療に関する援助技術Ⅱ	1	30	30	大村康子		
		診療に関する援助技術Ⅲ	臨床検査	1	30	4	伊東山勤	長崎医学中央検査室
			検査(看護)			2	山本由佳子	医師会医療センター診療所
			放射線療法			12	深松亜紀子	
			食事療法			6	吉田昌子	長崎みなとメディカルセンター
			健康段階			6	池田直美	
		臨床判断と看護実践	呼吸困難	2	45	8	深松亜紀子	
			消化器・排泄・意識障害			12	樋口香織	
						25	徳永智子	
	地域・在宅看護論	在宅看護における基本援助論	社会資源	2	45	4		
			機能訓練			4		
			主な在宅看護			10		
			看護過程			13	樋口香織	
			基本援助			14	靄岡イツ子	
		家族看護論		1	30	18	森藤香奈子	長崎大学大学院
						4	永江誠治	長崎大学大学院
						4	本多直子	長崎大学大学院
						4	神徳備子	長崎大学大学院
		在宅看護における医療処置	人工透析	1	15	5	堀内清孝	長崎みなとメディカルセンター
	医療処置		10					
	成人看護学	救急医療と看護	救急医療	1	15	6	本田智治	長崎大学病院
			救急医療と看護			9	糟谷操子	
		手術療法と看護	手術療法と看護(概論・各論)	1	30	16	野中由香	
腹部(食道)の手術を受ける人の看護			2			本田博之	長崎大学病院	
腹部(腹腔鏡下)の手術を受ける人の看護			2			福井陽子	長崎大学病院	
腹部(下部消化管)の手術を受ける人の看護			2			前田瑛彦	長崎大学病院	
胸部(肺)の手術を受ける人の看護			2			小林亜希子(A)	長崎大学病院	
						西すみれ(B)	長崎大学病院	
胸部(心臓)の手術を受ける人の看護			2			中釜祐子(A)	長崎大学病院	
						山口小百合(B)	長崎大学病院	
セルフマネジメントの支援		概論	1	30	10	大村康子		
		循環器障害患者の看護			8	松本勉	済生会長崎病院	
		血液・造血器障害患者の看護			6	前川聖一郎	聖フランシスコ病院	
		糖代謝障害患者の看護			6	山下理恵	長崎みなとメディカルセンター	
緩和ケア	緩和ケア	1	30	16	大村康子			
	ホスピスケア			4				
				6				
	ペインコントロール			4				
生活行動障害と看護(呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)	呼吸機能障害患者の看護	1	15	6	水頭りえ	長崎みなとメディカルセンター		
	運動機能障害患者の看護			6	一瀬葵	長崎大学病院		
	肝機能障害患者の看護			3	深松亜紀子			

専門分野	老年看護学	老年看護援助技術	生活機能を整える看護・治療 レクリエーション	1	30	20	本多麻友美	
			創傷看護			6	東登志夫	長崎大学
						4	瀬川 桂子	長崎みなとメディカルセンター
		老年期に特有な障害と看護	認知機能障害の看護	2	45	6	増崎辰徳	介護老人保健施設にしきの里
			認知機能障害・終末期の看護			6	山口美菜子	長崎みなとメディカルセンター
			摂食・嚥下機能障害の看護			4		
			言語療法			4		
	脳神経障害患者の看護 看護過程（脳梗塞事例）		25			渡辺美樹子		
	小児看護学	小児看護学援助技術	1	15	15	徳永 智子		
		小児期における健康障害	1	30	30			
		小児期における看護	1	30	20	田原えりか		
	母性看護学	周産期の経過/新生児の看護	周産期の経過 新生児の看護	1	30	22	馬場直美	
					8			
		妊婦・産婦・褥婦の看護		1	30	20	宮崎あやめ	長崎みなとメディカルセンター
						10	松竹明子	長崎みなとメディカルセンター
	リフ°ロタ°クティブ°ヘルス	1	15	15	馬場直美			
	精神看護学	精神障害と治療法	精神疾患の治療 精神疾患とその看護 作業療法 自助グループ°活動	1	30	6	小野慎治	おのクリニック
						14		
						4		
						6		
精神障害の看護援助		精神看護援助 状態に応じた看護 精神科デイケアにおける看護 地域定着支援 精神科訪問看護	2	45	19	川根明日美		
					8	野口 瑞希	長崎大学病院	
					8	柳村 陽介	長崎大学病院	
					4			
			2					
			2					
			2					
看護の統合と実践	災害看護	1	15	15				

2023年度 講師一覧表

第20期生

教育内容	授業科目	単位	総時間	時間	講師名	備考	
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度 地域保健論	概論 公衆衛生の基礎 公衆衛生の実践 (成人・老人保健、難病) 公衆衛生の実践 (母子保健) 公衆衛生の実践 (感染症と危機管理) 公衆衛生の実践(精神保健) 産業保健	1	15	1	木下日出美	副学校長
					4	谷 貴子	長崎県看護協会
					2		
					2		
					2		
					2		
					2		
関係法規	看護者と法律 関係法規	2	30	10	糟谷操子		
				20	横尾美智代	西九州大学	
統合分野	看護マネジメントと国際看護	看護マネジメント 国際看護	1	15	13	木下日出美	副学校長
					2	横尾美智代	西九州大学
	医療安全(演習)	看護研究(演習)	1	30	30	糟谷操子	
					12	黒田裕美	長崎大学大学院
					12	松浦江美	長崎大学大学院
			6	田中準一	長崎大学大学院		

